

資料編

注記

以下のデータを編纂するに当っては、主として『地総研ニュース』（創刊号～第7号）、『地域総合研究』（創刊号～第7号）、『社文研ニュース』（創刊号）、『国際社会文化研究所紀要』（創刊号～第10号）、龍谷大学「学術年鑑」（1991～2003年）を参照し、必要に応じて地域総合研究所運営会議議事録、国際社会文化研究所運営会議議事録、受発信文書、支出起案を参照した。研究プロジェクト一覧における研究員の所属・氏名等は研究員就任当初のものを採用した。また、研究員氏名の掲載順は、基本的に参照した資料における掲載順を踏襲している。誤認・誤記が認められた場合には、国際社会文化研究所事務室へ連絡されたい。

1. 助成研究プロジェクト一覧

1) 地域総合研究所期（1989～1996年度）

開始年度～ 終了年度	プロジェクト名 研究代表者	研 究 員
1989～1990	スーパービジョンの理論と実際 龍谷大学社会学部教授 黒川 昭登	龍谷大学社会学部教授 中垣 昌美 龍谷大学社会学部講師 津原 深雪 龍谷大学学生課嘱託カウンセラー 松岡 宗淳 美作女子短期大学部講師 石田 敦 滋賀県長浜市青少年センター 奥平 俊子 乙訓ポニーの学校主任指導員 大坪 勝弘 滋賀県彦根児童相談所判定主任 中川 泰彦 大阪高等学校教諭 池永 文雄 衣笠幼稚園教諭 北村 治代 京都市伏見区家庭児童相談室相談員 貝沼三枝子 滋賀県坂田郡福祉事務所福祉主事 川嶋 明美 宇治明星園老人ホーム 高谷よね子 京都市民生局福祉課福祉主事 大谷 隆造
1989～1993	地域社会の生活構造と住民意識の動態研究 龍谷大学社会学部教授 口羽 益生	龍谷大学経済学部教授 河村 能夫 滋賀県琵琶湖研究所主任研究員 嘉田由紀子 京都女子大学助教授 舟橋 和夫 龍谷大学社会学部ティーチングアシスタント 磯部（千葉）紀子 龍谷大学社会学部教授 笠原 成郎 龍谷大学社会学部教授 法雲 俊邑 龍谷大学社会学部助手 桑田 晃男 龍谷大学文学研究科修士課程 小野 剛 京都大学東南アジア研究センター教授 坪内 良博 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎 龍谷大学文学研究科修士課程 吉田 秀和 龍谷大学社会学部助教授 山中美由紀 龍谷大学文学研究科博士課程 玉里恵美子 龍谷大学社会学部教授 川崎 恵璋 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二 龍谷大学短期大学部助教授 志水 宏行 龍谷大学社会学部助手 磯部 裕 龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則 龍谷大学非常勤講師 西光 義秀 龍谷大学文学研究科修士課程 山本 哲司 龍谷大学社会学部教授 高津 等 京都大学東南アジア研究センター教授 高谷 好一 龍谷大学社会学部講師 新田 光子 龍谷大学大学院生 窪田 和美 龍谷大学大学院生 藤江 拓司 龍谷大学大学院生 山本 文 龍谷大学社会学部助教授 朝倉 恵俊 龍谷大学大学院社会学研究科生 福井 みさ 佛教大学大学院生 政岡 伸洋 龍谷大学社会学部教授 児玉 昇

<p>1991～1993</p> <p>児童問題から見た日米家族比較研究 日米社会福祉比較研究（児童・家庭を中心に） 龍谷大学社会学部教授 黒川 昭登</p>		<p>龍谷大学社会学部教授 中垣 昌美 龍谷大学社会学部教授 西光 義敏 龍谷大学社会学部講師 長上（津原）深雪 龍谷大学社会学部社会福祉学科助手 高松 智画 美作女子大学講師 石田 敦 聖カタリナ女子大学助手 栗田 修司 滋賀県彦根児童相談所判定主任 中川 泰彦 滋賀県心の教育相談センターカウンセラー 奥平 俊子 龍谷大学社会学部助教授 亀山 佳明 電気通信大学助教授 森 重雄 香川大学教育学部助教授 加野 芳正 香川大学教育学部助教授 矢野 智司 香川大学教育学部助教授 武重 雅文 香川大学教育学部講師 桐田 克利 龍谷大学社会学部教授 一柳 豊勝 龍谷大学社会学部教授 兼原 洋子 龍谷大学社会学部教授 児島美都子 龍谷大学社会学部教授 奈倉 道隆 龍谷大学社会学部助教授 松溪 憲雄 龍谷大学社会学部助教授 村井 龍治 元米国ハワイ州老人福祉対策局長 ジョージ松隈 関西保育福祉専門学校講師 山下 和夫</p>
<p>1991～1991</p> <p>社会福祉・地域福祉の対象についての研究 龍谷大学社会学部教授 中垣 昌美</p>		<p>龍谷大学短期大学部講師 生田 正幸 龍谷大学社会学部講師 津原 深雪 大阪府立中宮病院精神医学ソーシャルワーカー 大西 豊 大谷女子大学講師 山下 憲昭 大阪城南女子短期大学講師 藤井 伸生 四条畷学園女子短期大学助教授 村井 龍治 種智院大学講師 滝村 雅人 大津市社会福祉協議会 山口 浩次</p>
<p>1992～1994</p> <p>滋賀県の地域レベルにおける労働力移動と社会構造の変動に関する実証的研究 龍谷大学経済学部教授 河村 能夫</p>		<p>龍谷大学経営学部教授 戸上 宗賢 龍谷大学経済学部講師 広岡 博之 龍谷大学非常勤講師 河村 律子 龍谷大学非常勤講師 中川ユリ子 京都女子大学助教授 舟橋 和夫 龍谷大学経済学部教授 石川 両一 龍谷大学非常勤講師 斎藤 千宏</p>
<p>1992～1994</p> <p>琵琶湖干拓農業と村落構造—滋賀県湖東大中の場合— 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二（1992年度） 龍谷大学社会学部教授 高津 等（1993, 1994年度）</p>		<p>龍谷大学社会学部教授 笠原 成郎 龍谷大学社会学部教授 川崎 恵璋 龍谷大学短期大学部教授 志水 宏行 龍谷大学社会学部教授 法雲 俊邑 龍谷大学社会学部講師 磯部 裕 龍谷大学社会学部助手 磯部（千葉）紀子 龍谷大学大学院社会学研究科生 笠原 正嗣 龍谷大学大学院社会学研究科生 吉田 秀和 龍谷大学大学院文学研究科生 山本 文 龍谷大学社会学部講師 持田 良和</p>

1992～1994	現代日本家族の変貌に関する総合的研究—国際比較の視点を中心に— 龍谷大学社会学部教授 中 久郎	龍谷大学社会学部教授 居安 正 龍谷大学法学部教授 甲斐道太郎 龍谷大学社会学部教授 口羽 益生 龍谷大学社会学部教授 児玉 昇 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二 龍谷大学社会学部教授 高津 等 龍谷大学経済学部教授 坪内 玲子 龍谷大学社会学部教授 中垣 昌美 龍谷大学社会学部教授 亀山 佳明 龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎 龍谷大学社会学部助教授 松溪 憲雄 龍谷大学社会学部助教授 山中美由紀 龍谷大学社会学部助教授 長上 深雪 龍谷大学短期大学部講師 磯部 裕 龍谷大学社会学部講師 新田 光子
1994～1996	地域社会・社会福祉制度に関する比較研究 龍谷大学社会学部教授 乘原 洋子	龍谷大学短期大学部助教授 生田 正幸 龍谷大学社会学部教授 黒川 昭登 龍谷大学短期大学部教授 小林 一 龍谷大学短期大学部教授 柴田 晃 龍谷大学短期大学部教授 清水 教恵 甲子園短期大学講師 新居 澄子 京都大学助手 西山 伸 種智院大学教授 宮城洋一郎 聖カタリナ女子大学助手 山野 尚美 龍谷大学大学院社会学研究科生 鶴沼 憲晴 龍谷大学大学院社会学研究科生 中根 真 龍谷大学法学部教授 脇田 滋 龍谷大学経営学部教授 中山 淳子 龍谷大学社会学部教授 新田 光子 龍谷大学社会学部教授 藤井 浩司 龍谷大学社会学研究科生 末光 正和 龍谷大学社会学研究科生 真鍋 顕久 龍谷大学社会学研究科生 前田美也子
1994～1996	地域社会、家族および宗教の関係に関する比較研究 龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則	龍谷大学社会学部教授 居安 正 龍谷大学短期大学部講師 磯部 裕 龍谷大学社会学部教授 口羽 益生 龍谷大学社会学部助手 窪田 和美 龍谷大学文学部教授 小玉 大圓 龍谷大学社会学部講師 西光 義秀 龍谷大学社会学部助教授 寺川 幽芳 龍谷大学文学部教授 陳 謙臣 龍谷大学経済学部教授 中村 尚司 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎 龍谷大学社会学部教授 山中美由紀 吉備国際大学教授 プラサート・ヤムクリンフン フィリピン大学教授 レスリー E. パウゼン 広島市立大学教授 オマール・ファルーク 京都大学教授 加藤 剛 龍谷大学名誉教授 川崎 恵璋

		淑徳大学教授 森岡 清美 滋賀県立短期大学教授 武邑 尚彦 高知女子大学講師 玉里恵美子 上智大学教授 寺田 勇文 宮崎公立大学助教授 中別府温和 京都大学助教授 林 行夫 京都女子大学助教授 舟橋 和夫 鹿児島県立大学講師 星野 元貞 地域総合研究所嘱託研究員 磯部 紀子 地域総合研究所嘱託研究員 田中 道博 龍谷大学大学院社会学研究科生 中西 尋子 地域総合研究所嘱託研究員 福井 みさ
1995～1995	滋賀県と他府県の住民組織の比較研究 龍谷大学社会学部教授 高津 等	龍谷大学短期大学部講師 磯部 裕 龍谷大学社会学部教授 笠原 成郎 龍谷大学社会学部助手 笠原 正嗣 龍谷大学社会学部助手 窪田 和美 龍谷大学社会学部教授 志水 宏行 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二 帝塚山女子短期大学講師 岡本 晴行 龍谷大学社会学研究科生 柴田 和子 地域総合研究所嘱託研究員 水間みどり 龍谷大学社会学研究科生 吉田 秀和
1995～1995	京滋地域の商業構造の分析 龍谷大学経営学部助教授 寺島 和夫	龍谷大学経営学部助教授 野間 圭介
1995～1995	現代日本家族の変貌に関する総合的研究 龍谷大学社会学部教授 中 久郎	龍谷大学短期大学部講師 磯部 裕 龍谷大学社会学部教授 居安 正 龍谷大学社会学部助教授 長上 深雪 龍谷大学社会学部教授 亀山 佳明 龍谷大学社会学部教授 口羽 益生 龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則 龍谷大学社会学部教授 児玉 昇 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二 龍谷大学社会学部教授 高津 等 龍谷大学経済学部教授 坪内 玲子 龍谷大学社会学部教授 中垣 昌美 龍谷大学社会学部講師 新田 光子 龍谷大学社会学部教授 松溪 憲雄 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎 龍谷大学社会学部教授 山中美由紀
1995～1995	高齢化する地域社会の実態調査研究 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎	龍谷大学社会学部助教授 長上 深雪 龍谷大学経済学部教授 河村 能夫 龍谷大学社会学部講師 須羽 新二 龍谷大学社会学部教授 向井 利栄 龍谷大学社会学部助教授 村井 龍治 龍谷大学社会学部講師 持田 良和
1995～1995	自治の現場と「地方分権」—大津市と逗子市を ケースとして— 龍谷大学法学部教授 水口 憲人	龍谷大学法学部助教授 白石 克孝 島根大学教授 富野暉一郎

1. 助成研究プロジェクト一覧

<p>1996～1996</p>	<p>滋賀県における地域福祉に関する総合的研究— 高齢者・障害者・児童を中心に— 龍谷大学社会学部助教授 村井 龍治</p>	<p>龍谷大学社会学部助教授 佐々木政人 龍谷大学社会学部助教授 長上 深雪 龍谷大学社会学部助手 西川 淑子 龍谷大学非常勤講師 合田 誠 華頂福祉専門学校講師 高松 智画</p>
<p>1996～1996</p>	<p>地域の産業構造と政治文化の動態研究—中央 - 地方関係をめぐる視点から— 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二</p>	<p>龍谷大学社会学部教授 笠原 成郎 龍谷大学社会学部助手 笠原 正嗣</p>
<p>1996～1996</p>	<p>滋賀県市町村人口の将来推計 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎</p>	<p>龍谷大学経済学部教授 河村 能夫 龍谷大学経済学部教授 西堀 文隆</p>
<p>1996～1996</p>	<p>京滋地域の大学転出と誘致に関する研究 龍谷大学文学部教授 村田 鈴子</p>	<p>龍谷大学国際文化学部助教授 古川 秀夫</p>

2) 国際社会文化研究所期（1997年度～現在）

開始年度～ 終了年度	プロジェクト名 研究代表者	研 究 員
1997～1997	古代アジアの仏教文化交流についての総合的研究 龍谷大学国際文化学部教授 上山 大峻	龍谷大学国際文化学部助教授 嵩 満也 龍谷大学国際文化学部講師 徐 光輝 龍谷大学国際文化学部講師 稲葉 稜 遼寧省朝陽市北塔管理所長 董 高 河北省文物管理局長 張 文瑞 山東省文物工程公司經理 常 興照
1997～1997	家族生活と高齢者問題に関する比較研究 龍谷大学社会学部教授 口羽 益生	龍谷大学経済学部教授 坪内 玲子 龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎 龍谷大学社会学部助教授 山中美由紀 龍谷大学社会学部助手 窪田 和美 吉備国際大学教授 プラサート・ヤムクリンフン 京都女子大学助教授 舟橋 和夫 高知女子大学講師 玉里恵美子 龍谷大学大学院社会学研究科 寺田 憲弘 龍谷大学大学院社会学研究科 中西 尋子
1997～1997	社会福祉サービスとニーズの適合性に関する研究—滋賀県下市町村の比較研究を通じて— 社会学部助教授 村井 龍治	龍谷大学社会学部助教授 佐々木政人 龍谷大学社会学部助教授 長上 深雪 龍谷大学社会学部助手 西川 淑子 龍谷大学非常勤講師 合田 誠 華頂福祉専門学校講師 高松 智画
1997～1997	東欧における3つの移行期経済の比較研究 龍谷大学国際文化学部教授 キグリチュ・イシュトバーン	龍谷大学経済学部教授 シンプソン・ジェームズ 龍谷大学国際文化学部講師 齊藤 文彦
1997～1997	日本と韓国における稲作文化の比較研究 龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護	龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国 円光大学教授 金 鎮国 韓国放送大学助教授 孫 鐘欽
1997～1997	南九州における隠れ念仏の研究 龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則	宮崎公立大学助教授 中別府温和
1997～1997	スリランカにおける世帯の親族構造 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎	スリランカ統計局次長 S. Sangarapillai
1997～1997	社会化論の再検討 龍谷大学社会学部講師 持田 良和	龍谷大学社会学部教授 亀山 佳明 龍谷大学社会学部教授 松溪 憲雄 龍谷大学社会学部助教授 佐々木政人 山口県立大学助教授 山田 富秋 香川大学教授 加野 芳正 電気通信大学助教授 森 重雄 上越教育大学助教授 松本 健義
1997～1997	大都市周辺地域の高等教育問題に関する研究—滋賀県と栃木県の場合— 龍谷大学国際文化学部教授 村田 鈴子	龍谷大学国際文化学部助教授 古川 秀夫

1. 助成研究プロジェクト一覧

1997～1997	先進福祉国家の成立と展開—スウェーデンと英国の比較研究— 龍谷大学社会学部教授 高島 昌二	
1997～1997	大潟村入植者の宗教生活に関する研究 龍谷大学社会学部教授 志水 宏行	
1997～1997	香港の中国返還をめぐる現地マスコミの論調の変化、および現地マスメディア再編についての考察 龍谷大学国際文化学部教授 卓 南生	
1997～1997	How are Computers Affecting Language Teachers' Theory and Practice? 龍谷大学国際文化学部助教授 ブラドリー・ウィリアム	
1997～1997	反ユダヤ主義の研究—ダマスカス事件における儀式殺人とユダヤ人— 龍谷大学社会学部教授 児玉 昇	
1998～1998	知識の編纂とメディア：WWW 環境における共同作業（コラボレーション）過程の記述・分析に関する研究 龍谷大学国際文化学部講師 加藤 文俊	産業能率大学講師 長岡 健
1998～1998	介護関連サービス従事者の介護意識に関する心理発達の研究 龍谷大学社会学部教授 福崎 哲	同志社大学副学長・文学部長 岡本 民夫
1998～1998	中国東北部と日本北陸・東北地方の古代文化交流に関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 嵩 満也	龍谷大学国際文化学部講師 徐 光輝 吉林省文物考古学研究所助教授 何 明
1998～1998	伝統を越えて：現代歌舞伎役者の訓練と復活 龍谷大学国際文化学部助教授 サルズ・ジョナ	ポートランド州立大学教授 Lawrence R. Kominz 龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国
1998～1998	アジアにおけるエネルギー安全保障と天然ガス貿易の役割 龍谷大学国際文化学部教授 松井 賢一	龍谷大学国際文化学部教授 大澤 晃 立命館大学国際関係学部教授 唐沢 敬 米国エネルギー省政策局シニア・エコノミスト インヤ・バイク 名古屋経済大学経済学部名誉教授 武井 満男
1998～1998	日・中・韓三ヶ言語の漢字の意味対照研究 龍谷大学国際文化学部教授 龐 春蘭	龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国 韓国群長工業専門大学助教授 徐 益煥
1998～1998	日本、オーストラリアの両大学生の授業に対する姿勢の比較	大阪工業大学助教授 STEPHEN M. RYAN

	龍谷大学国際文化学部助教授 ファーマノフスキー・マイケル	
1998～1998	南九州における隠れ念仏の研究 龍谷大学社会学部教授 古賀 和則	宮崎公立大学助教授 中別府温和
1998～1998	中国の農村における貧困問題に関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 木南 莉莉	
1998～1998	ケニヤとウガンダにおける地方分権化政策の比較研究 龍谷大学国際文化学部講師 斎藤 文彦	
1998～1998	人権条約の実施のための提案制度の有効性の研究：日本をテストケースとして 龍谷大学国際文化学部教授 浜野シルビア・ブラウン	
1998～1998	近世日本建築の意匠における西欧手法の研究 龍谷大学国際文化学部講師 宮元 健次	
1998～1998	岐阜県白川村に見る世界文化遺産指定の光と影 —伝統の保存と近代化のパラダイムより— 龍谷大学社会学部教授 小笠原 眞	
1998～1998	韓国における既婚女性の就労実態と家庭役割の現状 龍谷大学社会学部助教授 山中美由紀	
1998～1998	Improvement and Updating of Long Term Agricultural Projections in China 龍谷大学国際文化学部教授 シンプソン・ジェームス	
1998～1998	スリランカ農村の人口変動と家族構成の変化 龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎	
1999～1999	過去2世紀間の気候変化がバンクスマツ林の構造に及ぼした影響の予備的評価 龍谷大学国際文化学部助教授 大澤 晃	平岡森林研究所研究員 宮浦 真澄
1999～1999	老親扶養と子どもの他出の問題—日本・韓国・タイ・スリランカの比較研究— 龍谷大学社会学部教授 口羽 益生	龍谷大学社会学部教授 舟橋 和夫 龍谷大学社会学部教授 松下敬一郎 龍谷大学社会学部助手 窪田 和美 吉備国際大学教授 プラサート・ヤムクリンフン 高知女子大学社会福祉学部助教授 玉里恵美子 龍谷大学社会学研究科博士後期課程生 寺田 憲弘 龍谷大学社会学研究科研究生 中西 尋子

1. 助成研究プロジェクト一覧

1999～1999	日本と中国における稲作文化の比較研究 龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護	龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国 龍谷大学国際文化学部講師 徐 光輝
1999～1999	フランス・アルザス地方の住民に関する意識構造研究 龍谷大学文学部教授 市村 卓彦	龍谷大学経営学部教授 杉村 昌昭 パリ大学教授 ベルツング・ジャン＝クロード
1999～1999	「型」：演劇における教授方法・伝承手段としての型から社会システムの編成原理としての型 龍谷大学国際文化学部教授 幸泉 哲紀	龍谷大学国際文化学部教授 サルズ・ジョナ
1999～1999	東アジア新秩序再編過程における Overseas Korean (朝鮮人) 問題 龍谷大学社会学部助教授 李 相哲	龍谷大学社会学部教授 舟橋 和夫 龍谷大学社会学部助教授 新田 光子 ジョージア大学教授 ハンス・パーク 中国社会科学院日本研究所研究員 金 熙徳 韓国南北平和統一研究所所長 董 勳
1999～1999	ドイツにおける社会文化および社会文化センターに関する総合研究—市民による地域センターおよび自主管理ネットワークの社会教育学・文化学と経営組織論からの研究— 龍谷大学経営学部教授 重本 直利	東京外国語大学留学生日本語教育センター助教授 谷 和明
1999～1999	旅順博物館蔵の大谷探検隊蒐集資料のデータベース化と目録作成 龍谷大学国際文化学部教授 上山 大峻	龍谷大学非常勤講師 三谷 真澄
1999～1999	ボランティア団体参加者の動機づけ 龍谷大学国際文化学部助教授 古川 秀夫	龍谷大学国際文化学部教授 福田 菊 龍谷大学社会学部教授 田中 滋 京都学園大学講師 大山 治彦 佛教大学講師 大東 貢生 阪神・淡路大震災記念協会研究員 柴田 和子
1999～1999	中国の経済改革とジェンダーに関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 木南 莉莉	
1999～1999	ユーロ導入 龍谷大学国際文化学部教授 キグリチュ・イシュトヴァーン	
1999～1999	新しいフィールドノートの作成：地域研究のための画像データベースのデザインに関する研究 龍谷大学国際文化学部講師 加藤 文俊	
1999～1999	20世紀初頭の仏教日曜学校の展開についての調査研究 龍谷大学社会学部講師 持田 良和	
1999～1999	河川環境保全に向けた流域社会論アプローチ 龍谷大学社会学部教授 田中 滋	

1999～1999	アメリカ女子高等教育に関する研究—最近の変化を中心に— 龍谷大学国際文化学部教授 村田 鈴子	
1999～1999	The Impact of Major Powers' Responses to Oversight of their Compliance with the International Convention on Civil and Political Rights 龍谷大学国際文化学部教授 浜野シルビア・ブラウン	
1999～1999	異文化接触とアイデンティティ探究—谷崎潤一郎の場合 龍谷大学国際文化学部教授 鶴田 欣也	
1999～1999	「震災と神戸」震災後の交流の場を作っていくための研究 龍谷大学社会学部教授 佐々木政人	
1999～1999	日本建築における古代中国の北斗七星信仰の影響に関する研究 龍谷大学国際文化学部講師 宮元 健次	
2000～2000	日本、アジア、西欧の演劇におけるコード化過程の比較研究—「型」又は型に類似したシステムを通してのスタイルの創造、伝承、変容— 龍谷大学国際文化学部助教授 サルズ・ジョナ	龍谷大学国際文化学部教授 幸泉 哲紀 龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国 龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護 龍谷大学国際文化学部教授 杉村 棟
2000～2000	地域共同体による子どもの社会化機能に関する研究 龍谷大学社会学部講師 持田 良和	鈴鹿国際大学教授 青木恵理子
2000～2000	老親扶養と親族関係に関する国際比較—日本・韓国・タイ・スリランカの比較研究— 龍谷大学社会学部教授 舟橋 和夫	龍谷大学非常勤講師 口羽 益生 関西大学経済学部教授 松下敬一郎 龍谷大学社会学部教授 古賀 和則 龍谷大学社会学部助手 窪田 和美 龍谷大学非常勤講師 中西 尋子
2000～2000	漢字反対語彙対照研究 龍谷大学国際文化学部教授 龐 春蘭	龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国 韓国群長工業専門大学 徐 益煥
2000～2001	Online filmography: multimedia software for culture and language education. 龍谷大学国際文化学部講師 タヒューン・ノエル	立命館大学助教授 ショーバック・マイケル
2000～2001	韓国における社会文化および「文化の家」に関する総合研究—地域コミュニティーと市民社会形成に関する比較思想および経営組織論からの研究—	大阪学院大学国際学部助教授 吉田 正岳

1. 助成研究プロジェクト一覧

	龍谷大学経営学部教授 重本 直利	
2000～2001	古代日本と中国北方地方・朝鮮半島の仏教文化交流の研究 龍谷大学国際文化学部助教授 嵩 満也	龍谷大学国際文化学部教授 上山 大峻 龍谷大学国際文化学部講師 徐 光輝 朝陽市北塔文物保管所所長 董 高 吉林省文物考古学研究所副研究員 何 明 龍谷大学非常勤講師 三谷 真澄
2000～2001	中国の畜産農家が子牛と子羊を中国の中央地域に販売するにあたっての経済的・文化的な問題 龍谷大学国際文化学部教授 シンプソン・ジェームス	龍谷大学国際文化学部助教授 木南 莉莉 龍谷大学経済学研究科博士後期課程生 李 复屏 China Agriculture University, Associate Professor Li Ou
2000～2000	「開かれた対人系」として見る生涯発達 龍谷大学社会学部助教授 金子龍太郎	
2000～2000	集団におけるコミュニケーション・プロセスの記述・分析・評価方法に関する研究―体験学習の〈場〉を事例として 龍谷大学国際文化学部講師 加藤 文俊	
2000～2000	韓国と日本における家族構造と高齢化問題 龍谷大学社会学部教授 山中美由紀	
2000～2000	民族と秩序 龍谷大学社会学部助教授 李 相哲	
2000～2000	沖縄と韓国の綱引比較研究 龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国	
2000～2000	アメリカ女子高等教育成立過程の研究 龍谷大学国際文化学部教授 村田 鈴子	
2000～2000	ユーロ導入から2年目 龍谷大学国際文化学部教授 キグリチュ・イシュトヴァーン	
2000～2000	沖縄建築における近世中国の陰陽五行説の影響に関する研究 龍谷大学国際文化学部講師 宮元 健次	
2000～2000	M. ミードと R. ベネディクトの関係について 龍谷大学国際文化学部助教授 ポーリン・ケント	
2001～2002	文化受容と社会変容の型 龍谷大学国際文化学部教授 幸泉 哲紀	龍谷大学国際文化学部教授 権 五定 龍谷大学国際文化学部助教授 嵩 満也 京都大学人文科学研究所助教授 稲葉 稔
2001～2001	アジアの女性と家族に関する国際比較―日本・韓国・中国・タイ・インドネシアの比較研究―	龍谷大学社会学部教授 舟橋 和夫 龍谷大学社会学部助教授 新田 光子

	龍谷大学社会学部教授 山中美由紀	龍谷大学社会学部助教授 青木恵理子 龍谷大学国際文化学部助教授 ポーリン・ケント 龍谷大学国際文化学部助教授 木南 莉莉 龍谷大学非常勤講師 中西 尋子 韓国 嶺南大学教授 洪 上旭 韓国 聖公会大学助教授 張 和郷
2001～2001	農業構造の日本・中国・アメリカ国際比較研究 龍谷大学国際文化学部教授 木南 莉莉	龍谷大学国際文化学部教授 シンプソン・ジェームス Cornell Univ. Professor Dpartment of Agricultural, Resource and Managerial Economics Nelson Bills
2001～2001	日・韓村祭りの比較研究 龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国	龍谷大学国際文化学部助教授 サルズ・ジョナ 龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護 円光大学師範学部国語教育科教授 金 鎮国 円光大学人文学部教授 金 在用 全州友石大学芸術学部舞踏科教授 金 敬珠
2001～2002	第2次大戦期における日本人のアジア観 龍谷大学国際文化学部教授 長崎 暢子	龍谷大学国際文化学部教授 上山 大峻 龍谷大学経済学部教授 中村 尚司 龍谷大学国際文化学部助教授 嵩 満也
2001～2002	地方分権時代における市民活動と大学の連携 龍谷大学国際文化学部助教授 古川 秀夫	龍谷大学国際関係学部教授 福田 菊 龍谷大学社会学部教授 田中 滋 四国学院短期大学助教授 大山 治彦 佛教学講師 大東 貢生 阪神・淡路大震災記念協会研究員 柴田 和子
2001～2001	Contemporary actor training in traditional theatre: Balinese Gambuh, home versus academy lessons 龍谷大学国際文化学部助教授 サルズ・ジョナ	
2001～2001	建築における東西交流の研究 龍谷大学国際文化学部講師 宮元 健次	
2001～2001	東インドネシア・フローレス島における政治的 権威と子育ての関係とその変容 龍谷大学社会学部助教授 青木恵理子	
2001～2001	現代中国のマス・メディアと社会変動—プレス に関する一つの理論 龍谷大学社会学部助教授 李 相哲	
2001～2001	集会的暴力の比較文化研究—日米の都市暴動を 事例として— 龍谷大学社会学部助教授 吉田 竜司	
2002～2004	日本の中国占領とジャーナリズム 龍谷大学国際文化学部教授 卓 南生	龍谷大学社会学部助教授 李 相哲 中国人民大学新聞学院教授 程 曼麗 北京大学新聞傳播学院助教授 陳 昌鳳

1. 助成研究プロジェクト一覧

2002～2002	アジアの家族変動に関する国際比較—日本・韓国・中国・タイ・インドネシアの比較研究— 龍谷大学社会学部教授 山中美由紀	龍谷大学社会学部教授 舟橋 和夫 龍谷大学社会学部教授 新田 光子 龍谷大学社会学部教授 青木恵理子 龍谷大学国際文化学部助教授 ポーリン・ケント 新潟大学農学部助教授 木南 莉莉 慶熙大学大学院教授 金 曠洙 嶺南大学教授 洪 上旭 聖公会大学助教授 張 和郷 龍谷大学非常勤講師 中西 尋子
2002～2002	中国長江流域における稲作文化の発生と伝播に関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 徐 光輝	龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護 雲南大学人類学系主任教授 尹 紹亭 南京博物院考古学研究所副研究員 林 留根
2002～2002	南方熊楠英文論文の資料調査と翻訳 龍谷大学国際文化学部助教授 松居 竜五	京都工芸繊維大学工学学部教授 小泉 博一
2002～2003	社会福祉援助技術への訓練方法の研究—コンピュータ支援による実践教育の展開— 龍谷大学社会学部教授 太田 義弘 (2002年度) 龍谷大学社会学部教授 野澤 正子 (2003年度)	龍谷大学社会学部教授 野澤 正子 京都府立大学助教授 中村 佐織 龍谷大学短期大学部助教授 阪口 春彦
2002～2003	現代的ネットワークにもとづく地域—龍谷大学社会学部の再構築の可能性 龍谷大学社会学部教授 田中 滋	龍谷大学社会学部助教授 吉田 竜司 奈良女子大学文学部講師 水垣源太郎
2002～2003	ビオトープ設置が生徒・学生の心理・行動面に及ぼす影響に関する研究 龍谷大学社会学部教授 金子龍太郎	龍谷大学理工学部教授 竺 文彦 老蘇小学校教頭 関川 雅之 老蘇幼稚園園長 蜂谷 弘子
2002～2002	戦後日本の健康主義 龍谷大学社会学部教授 黒田浩一郎	
2002～2002	愛と親密性に関する人類学的研究 龍谷大学社会学部教授 青木恵理子	
2002～2002	宗教組織における女性の役割 龍谷大学社会学部教授 新田 光子	
2002～2002	集団行為の制度化に関する日米比較研究 龍谷大学社会学部助教授 吉田 竜司	
2002～2002	住民参加手法による開発と環境の両立：ウガンダの事例研究 龍谷大学国際文化学部助教授 斎藤 文彦	

2003～2005	空堀商店街界隈長屋再生プロジェクトをめぐる諸問題 龍谷大学国際文化学部助教授 寿崎かすみ	龍谷大学国際文化学部助教授 古川 秀夫 龍谷大学非常勤講師 柴田 和子
2003～2003	南方熊楠英文論文の連関的研究 龍谷大学国際文化学部助教授 松居 竜五	京都工芸繊維大学工芸学部教授 小泉 博一
2003～2004	軽費老人ホームの現状と課題 龍谷大学社会学部助教授 西川 淑子	龍谷大学社会学部講師 高松 智画 京都学園大学非常勤講師 船本 淑恵
2003～2004	食のグローバル化と社会病理 龍谷大学社会学部講師 村澤真保呂	龍谷大学社会学部教授 亀山 佳明 龍谷大学経営学部教授 杉村 昌昭 龍谷大学社会学部助手 野村佳絵子 龍谷大学社会学研究科修士課程 高阪 学
2003～2004	中国西部放牧地域における貧困軽減のための参加型地域開発に関する研究 龍谷大学社会学部講師 李 复屏	龍谷大学経済学部教授 河村 能夫 龍谷大学国際文化学部教授 シンプソン・ジェームズ 中国農業大学助教授 李 鷗
2003～2003	通貨・記録・科学及びその余白に関する人類学的研究 龍谷大学社会学部教授 青木恵理子	
2003～2003	原爆と寺院の社会学的考察 龍谷大学社会学部教授 新田 光子	
2003～2003	オーストラリアにおけるボランティアコーディネーター養成システムの研究 龍谷大学社会学部教授 筒井のり子	
2003～2003	高次脳機能障害者における日常記憶 龍谷大学社会学部助教授 松島 恵介	
2003～2003	日本の NGO のロビーイングを相互に調整することが規約人権委員会の審査に及ぼしうる影響 龍谷大学国際文化学部教授 浜野シルビア・ブラウン	
2003～2003	リスク社会に対する日本の若者の認識 龍谷大学国際文化学部助教授 ブラドリー・ウィリアム	
2004～2004	日中韓の漢字語単語を利用した語彙力増進の研究 龍谷大学国際文化学部助教授 劉 虹	龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国 韓国 群長大学助教授 徐 益煥 中国 遼寧師範大学助教授 蘇 瑞卿
2004～2005	サハラ以南アフリカの精神保健福祉分野へのオペティマル・トリートメント・プロジェクト (OTP) 導入に関するフィージビリティ研究	関西福祉大学講師 金田 知子

1. 助成研究プロジェクト一覧

	龍谷大学法学部助教授 落合 雄彦	
2004～2005	戦争の社会的影響に関する研究—新しい視点からの原爆被害研究をめざして— 龍谷大学社会学部助教授 新田 光子	龍谷大学社会学部教授 山中美由紀 広島国際学院大学教授 高橋 三郎
2004～2005	カナダ亜寒帯林の炭素収支 龍谷大学国際文化学部教授 大澤 晃	龍谷大学理工学部教授 宮浦 富保 平岡森林研究所研究員 倉地奈保子
2004～2005	日本における介護分野でのフィリピン人労働者の受け入れに関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 カルロス・マリア・レイナルス	アメリカ ジュネスセンター研究員 Pobre Mervin
2004～2005	東北アジア古代文化交流の総合的研究—中国遼東・山東地域の古代文化を中心にして— 龍谷大学国際文化学部助教授 徐 光輝	龍谷大学国際文化学部教授 嵩 満也 中国 撫順市博物館館長 蕭 景全 中国 国家文物局信息中心研究員 常 興照
2004～2005	アメリカのマスメディア・大衆文化に見る日本のイメージ 龍谷大学国際文化学部助教授 ブラドリー・ウィリアム	国際文化学部助教授 松居 竜五
2004～2004	健康食品の社会学 龍谷大学社会学部教授 黒田浩一郎	
2004～2004	日本統治下のハングル新聞の研究 龍谷大学社会学部助教授 李 相哲	
2004～2004	高次脳機能障害者における日常記憶と活動 龍谷大学社会学部助教授 松島 恵介	
2004～2004	中国「近代型」新聞の研究—『香港船頭貨価紙』および『香港華字日報』の内容分析を中心にして— 龍谷大学国際文化学部教授 卓 南生	
2004～2004	日本とオランダの陶磁器の意匠における相互影響に関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 宮元 健次	
2005～2006	NPO 法人による被虐待児に対応する新たな社会的養護の創出—国際児童支援組織 SOS 子どもの村を導入するための理論的検討— 龍谷大学社会学部教授 金子龍太郎	北陸学院短期大学助教授 中島 賢介
2005～2006	韓国と日本伝統芸能の比較美学 龍谷大学国際文化学部教授	龍谷大学国際文化学部教授 幸泉 哲紀 龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国

	サルズ・ジョナ	龍谷大学文学部教授 ラザリン・マイケル Ohio State University 助教授 Chan E. Park University of Hawaii 教授 Judy van Zile Ewha Womans University 講師 Mi-hee Yoo
2005～2006	日中ジャーナリズム交流史の系譜についての研究 龍谷大学国際文化学部教授 卓 南生	中国厦門大学講師 毛 章清
2005～2006	学問分野としての「国際文化学」の確立 龍谷大学国際文化学部教授 松井 賢一	龍谷大学国際文化学部助教授 カルロス・マリア・レイナルース 龍谷大学国際文化学部助教授 松居 竜五 早稲田大学教授 平野健一郎 龍谷大学国際文化学部教授 ブラドリー・ウィリアム 龍谷大学国際文化学部教授 長崎 暢子 プール学院大学助教授 植野 雄司 成蹊大学助教授 川村 陶子
2005～2006	フィールドワークによる南方熊楠の足跡調査と映像作品の作成 龍谷大学国際文化学部助教授 松居 竜五	京都工芸繊維大学助手 岩崎 仁
2005～2005	国際語としての英語とは？：ポライトネスの観点からの示唆 龍谷大学法学部助教授 村田 和代	関西外国語大学教授 堀 素子
2005～2005	先端医療に関する医療社会学的視点・分析枠組みの構築—「生活習慣病」の成立とその予防活動の普及を事例として 龍谷大学社会学部教授 黒田浩一郎	
2005～2005	郊外化と犯罪—滋賀県における地域社会の変容と実態 龍谷大学社会学部助教授 津島 昌弘	
2005～2005	マス・イベントにおける公的秩序維持に関する社会学的研究 龍谷大学社会学部助教授 吉田 竜司	
2005～2005	イランにおける民主制の起源と展開 龍谷大学国際文化学部助教授 佐野 東生	
2005～2005	賦課的ボランティア活動への青年意識に関する比較研究 龍谷大学国際文化学部助教授 古川 秀夫	
2005.8.1～ 2006.3.17	消防隊員のPTSD 予防システム構築の研究（消防庁受託研究） 龍谷大学社会学部助教授 栗田 修司	龍谷大学社会学部教授 村井 龍治 龍谷大学社会学部教授 安西 将也 龍谷大学社会学部助教授 井上 辰樹

2006～2007	「新たな観光」の可能性と地域社会 龍谷大学社会学部教授 田中 滋	龍谷大学非常勤講師 寺田 憲弘
2006～2007	日・韓比較民俗研究 龍谷大学国際文化学部助教授 朴 炫国	龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護 龍谷大学国際文化学部教授 サルズ・ジョナ 圓光大学校教授 金 鎮国 中央大学校教授 朴 銓烈 梨花女子大学校研究教授 高 惠卿 全北大学校教授 金 茂烈 順天大学校教授 尹 敬源
2006～2006	アイデンティティ・ポリティクスを乗り越える： 東インドネシアとヨーロッパの文化混交と グローバリゼーションの視点から 龍谷大学社会学部教授 青木恵理子	
2006～2006	「ニュース発信ツールとしてのブログ」研究— 個人メディアが変えるジャーナリズム 龍谷大学社会学部助教授 小黒 純	
2006～2006	民主国家における群集の社会的コントロールに 関する研究 龍谷大学社会学部助教授 吉田 竜司	
2006～2006	子どもから大学生までを巻き込んだ「まちづく り」手法に関する研究 龍谷大学国際文化学部助教授 寿崎かすみ	
2006～2006	戦前の本願寺ハワイ教団における非日系人開教 使の研究—日系移民社会に見られる異質なもの の受容と排斥 龍谷大学国際文化学部教授 嵩 満也	
2006～2006	グローバリゼーション研究プログラムの概観 龍谷大学国際文化学部教授 ブラドリー・ウィリアム	
2006～2006	英語学習者の語用力を測るテストの開発—外国 語学習における留学効果を問う 龍谷大学国際文化学部助教授 松村 省一	
2007～2009	世界の中の日本、日本の中の世界—大学評価シ ステムの国際比較と「評価文化」に関する総合 研究— 龍谷大学経営学部教授 細川 孝	龍谷大学経営学部教授 重本 直利 龍谷大学経営学部教授 三島 倫八 龍谷大学経営学部准教授 小長谷大介 龍谷大学社会学部特任実習助手 中道 眞 名古屋大学教授 植田 健男 工学院大学教授 蔵原 清人 大阪大学教授 望月 太郎

		日本大学助手 小山 由美 文科省科学技術政策研究所研究官 中村 征樹 龍谷大学経済学部教授 角岡 賢一 成蹊大学非常勤講師 桔川 純子
2007～2009	世界の中の日本、日本の中の世界—日・中・韓 関係とジャーナリズムの役割について— 龍谷大学社会学部教授 竹山 相哲	龍谷大学法学部教授 西倉 一喜 龍谷大学社会学部准教授 小黒 純 龍谷大学国際文化学部教授 卓 南生 共同通信中国総局長 渡辺 陽介 釜山大学教授 蔡 白 韓国東亜日報論説委員 李 東官 中国青年報記者兼日本僑報社編集長 段 躍中 韓国放送映像産業振興院研究員 金 泳徳
2007～2009	世界の中の日本、日本の中の世界—イスタンブ ル旧日本総領事館と日本の文明開化思潮— 龍谷大学国際文化学部教授 ヤマンラール水野美奈子	龍谷大学国際文化学部准教授 佐野 東生 龍谷大学国際文化学部教授 嵩 満也 龍谷大学国際文化学部准教授 三谷 真澄 明治大学教授 永田 雄三 東京大学教授 鈴木 董 東京大学教授 松村 伸
2007～2007	国民文化イメージの国際文化学 龍谷大学国際文化学部教授 佐々木英昭	龍谷大学国際文化学部教授 カルドネル・シルヴァン 龍谷大学国際文化学部教授 サルズ・ジョナ 龍谷大学国際文化学部教授 嵩 満也 龍谷大学国際文化学部教授 ブラドリー・ウィリアム 龍谷大学国際文化学部教授 ヤマンラール水野美奈子 龍谷大学国際文化学部教授 吉村 文成 龍谷大学国際文化学部准教授 松居 竜五
2007～2007	ミクロの暴力と国際危機における暴力との連関 についての理論的考察 龍谷大学国際文化学部教授 清水 耕介	龍谷大学国際文化学部講師 チャプル・ジュリアン 神戸大学教授 土佐 弘之 早稲田大学博士課程 井上 浩子
2007～2008	古代近江の轆轤工と渡来人 龍谷大学国際文化学部教授 須藤 護	龍谷大学文学部教授 松倉文比古 龍谷大学国際文化学部教授 徐 光輝 龍谷大学国際文化学部准教授 朴 炫国 佛教大学教授 門田 誠一
2007～2008	南方熊楠の海外での活動に関する資料の収集と 分析 龍谷大学国際文化学部准教授 松居 竜五	関西大学助教授 安田 忠典
2007～2007	少年事件の匿名報道に関する研究—米国、台湾、 日本における事例比較 龍谷大学社会学部准教授 小黒 純	
2007～2007	滋賀県における聴覚言語障害者の生活実態と生 活問題 龍谷大学社会学部教授 長上 深雪	

2007～2007	専門職のピアレビューの社会学的研究—心理職の調査から— 龍谷大学社会学部特任講師 中川 輝彦	
2007～2007	戦前の本願寺ハワイ教団における非日系人開教使の研究—今村恵猛のアメリカ仏教の主張との関係を中心— 龍谷大学国際文化学部教授 嵩 満也	
2007～2007	香港初期華字新聞に関する新事実の発見とその考察 龍谷大学国際文化学部教授 卓 南生	
2008～2009	日米におけるスポーツ組織の比較研究—学生の競技組織を中心に— 龍谷大学社会学部教授 小椋 博	龍谷大学社会学部教授 亀山 佳明 龍谷大学社会学部講師 久保 和之 京都女子大学教授 東元 春夫 滋賀大学教授 平井 肇 福山平成大学教授 小谷 寛二
2008～2009	大阪の被差別部落地域における生活実態調査 龍谷大学社会学部講師 岸 政彦	龍谷大学社会学部准教授 工藤 保則 大阪樟蔭女子大学非常勤講師 齋藤 直子 大阪市立大学前期修士課程 瓜生 りつ
2008～2009	医療労働者の二段階的国際移動の研究：シンガポールと南アフリカの比較 龍谷大学国際文化学部准教授 カルロス・マリア・レイナルース	立命館大学博士研究員 佐藤千鶴子
2008～2009	東西文化交流の総合的研究—北朝の都城、墳墓と仏教文化を中心に— 龍谷大学国際文化学部教授 徐 光輝	龍谷大学国際文化学部教授 嵩 満也 山西省大同市文物考古研究所研究館員 劉 俊喜 山西省大同市文物考古研究所研究館員 張 慶捷
2008～2008	日本におけるサービスラーニングの心理社会的効果 龍谷大学国際文化学部准教授 古川 秀夫	佛教大学准教授 大東 貢生
2008～2008	「広島戦災児育成所」の研究 龍谷大学社会学部教授 新田 光子	
2008～2008	19世紀フランス社会学の成立—国家主義と生物学主義に着目して— 龍谷大学社会学部講師 村澤真保呂	
2008～2008	ウガンダにおける地方自治定着の可能性：アフリカ新家産主義国家へのアンチテーゼ？ 龍谷大学国際文化学部教授 斎藤 文彦	

2008～2008	語用力測定テストの信頼性と妥当性について— 「学習者の主観性」からの考察 龍谷大学国際文化学部教授 松村 省一	
2008～2008	EU における多言語・多文化主義—ハンガリー 共和国の言語（外国語教育）政策— 龍谷大学国際文化学部教授 脇田 博文	

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

1) 地域総合研究所期（1989～1996年度）

年度	年月日	場所	セミナー等の名称	タイトル	報告者所属 報告者	備考
1989	1989.7.31	龍谷大学 瀬田学舎	地総研第1回研究セミナー『地域社会研究について考える』	最近の地域社会研究について	京都大学東南アジア研究センター 坪内 良博	
				琵琶湖周辺地域社会の変貌	滋賀県琵琶湖研究所 主任研究員 嘉田由紀子	
	1989.11.13	龍谷大学 瀬田学舎	講演会	スーパービジョンのケーススタディにおける最近の動向	聖カタリナ女子大学教授 大島 侑	
	1990.1.27	龍谷大学 瀬田学舎	地総研第2回研究セミナー	近江盆地をどうみるか—地形の意味論—	京都大学教授 高谷 好一	
近江商人の源流				日本ペンクラブ会員 江南 良三		
1990.3.24	龍谷大学 瀬田学舎	地総研第3回研究セミナー	レイカディア構想と地域社会	滋賀県理事員 鎌田昭二郎		
			行政からみた地域社会	滋賀県政策監 上原 恵美		
1990	1990.8.10	龍谷大学 瀬田学舎	第1回地総研セミナー	児童相談所と通所治療	滋賀県立彦根児童相談所 長 吉村 憲龍	
	1990.11.5	龍谷大学 瀬田学舎	第2回地総研セミナー	近江商人と浄土真宗	元日本社会学会会長 内藤 莞爾	
	1991.3.8	龍谷大学 瀬田学舎	第3回地総研セミナー『地域社会の活性化』	地域活性化の動向と意義	熊本大学文学部教授 丸山 定巳	
				都市と農村の交流	山口大学人文学部教授 小川 全夫	
	1991.3.15	龍谷大学 瀬田学舎	第4回地総研セミナー『近江商人—今と昔—』	近江商人の起業家精神とその背景—塚本家と塚喜商事(株)の場合—	塚喜商事社長 塚本喜左衛門	
				近江商人の軌跡をたどって	朝日新聞大津支局員 平井 敦夫	
	1991.3.16	龍谷大学 瀬田学舎	第5回地総研セミナー『地域社会の変貌』	離村者の同郷集団	同志社大学文学部教授 松本 通晴	
				江州知内村記録の研究	中京大学社会学部助教授 古川 彰	
1991.3.22	龍谷大学 瀬田学舎	第6回地総研セミナー『五個荘町の村落と祭礼』		佛敎大学文学部講師 八木 透		
				佛敎大学文学部講師 政岡 伸洋		
				佛敎大学文学部講師 村上 忠喜		

	1991.3.4	長浜サンパレス	『登校拒否児を考える』講演会と相談会	登校拒否の原因と治療	龍谷大学社会学部教授 黒川 昭登	
	1991.3.5	滋賀県立文化産業交流会館	登校拒否児を考えるセミナー			
1991	1991.6.19	龍谷大学瀬田学舎	第1回地総研セミナー	アメリカにおける老人福祉と保険問題研究の動向	アメリカ合衆国ハワイ州庁 元老人福祉対策局長 松隈 潔	
	1991.11.20	龍谷大学瀬田学舎	第2回地総研セミナー	アメリカの社会福祉の動向	アメリカ合衆国ハワイ州庁 元老人福祉対策局長 松隈 潔	
	1992.3.28	龍谷大学瀬田学舎	第3回地総研セミナー	東北の農村社会と出稼ぎ	山形大学人文学部教授 大川 健嗣	
	1991.9～11. 毎週木曜日計12回	龍谷大学瀬田学舎	青少年相談カウンセリング講座			共催：滋賀県青少年対策本部
1992	1992.4.6	龍谷大学瀬田学舎	家族研究プロジェクト学内研究会	家族研究の現象学的アプローチ	龍谷大学社会学部助教授 亀山 佳明	
	1992.5.6	龍谷大学瀬田学舎	家族研究プロジェクト学内研究会	志摩国府の隠居制の近況	龍谷大学社会学部助教授 高津 等	
	1992.5.23	龍谷大学瀬田学舎	第1回地総研セミナー	中国における家族調査	甲南女子大学文学部教授 宮城 宏	
韓国大邱における家族				愛知教育大学教育学部助手 山根 真理		
	1992.6.3	龍谷大学瀬田学舎	家族研究プロジェクト学内研究会	家督の相続と親族	龍谷大学経済学部教授 坪内 玲子	
	1992.6.13	龍谷大学瀬田学舎	第2回地総研セミナー	家族変動論あれこれ	大阪市立大学名誉教授 上子 武次	
日本の家族変動				甲南女子大学文学部助教授 牟田 和恵		
	1992.6.27	龍谷大学瀬田学舎	第3回地総研セミナー	農業をめぐる最近の諸情勢	大中の湖農業協同組合組合長 石川 勝	
	1992.7.1	龍谷大学瀬田学舎	家族研究プロジェクト学内研究会	家族の多様性の方向性—スウェーデン家族を中心に—	龍谷大学社会学部教授 高島 昌二	
	1992.7.18	龍谷大学瀬田学舎	第4回地総研セミナー	『モダニティとしての教育』再論	電気通信大学電気通信学部助教授 森 重雄	
日本の科学エリートと家庭環境				香川大学教育学部助教授 加野 芳正		

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

1992.9.~ 10.	龍谷大学 瀬田学舎	青少年相談カウ ンセリング講座			共催：滋賀県青 少年対策本部 REC
1992.10.24	龍谷大学 瀬田学舎	第5回地総研セ ミナー	マスコミュニケーション と政治的社會化	香川大学教育学部助教授 武重 雅文	
			ルソーと社會化	香川大学教育学部講師 桐田 克利	
1992.11.14	龍谷大学 瀬田学舎	第6回地総研セ ミナー	家族のゆくえ	お茶の水女子大学家政学 部教授 袖井 孝子	
			家族と性役割	青葉学園短期大学助教授 長津美代子	
1992.12.2	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	結婚の經濟理論	龍谷大学社会学部助教授 松下敬一郎	
1992.12.12	龍谷大学 瀬田学舎	第7回地総研セ ミナー	家族變動の視点	奈良女子大学文学部教授 光吉 利之	
			アイルランドにおける 直系家族について	桃山学院大学社会学部教 授 清水 由文	
1993.1.23	龍谷大学 瀬田学舎	第8回地総研セ ミナー	宗門人別帳から見た東 北地方農村の伝統的な 家族と人口	立命館大学産業社会学部 教授 高木 正朗	
			宗門人別帳から見た奈 良県十津川農村の伝統 的な家族と人口	姫路学院女子短期大学講 師 山本 準	
1993.1.28	龍谷大学 深草学舎	第9回地総研セ ミナー	日本における農家の労 働力移動に関する分析	Washington State University Ray Jussame	
1993.2.22	龍谷大学 深草学舎	第10回地総研セ ミナー	The Problems of doing research on immigrant groups	Washington State University Tetsuden Kashima	
1993.2.28	龍谷大学 大宮学舎	《家族の比較社 会学》シンポジ ウム	わが国の家族構造の地 域性	流通経済大学社会学部教 授 清水 浩昭	
			姉家督相続について	関西大学社会学部教授 前田 卓	
			アジアの家族 —Families in Asia: Beliefs and Realities— 編纂を通して	杏林大学外国語学部教授 熊谷 文枝	
			タイにおける仏教と家 族生活	吉備国際大学教授 チュラロンコン大学名誉 教授 Prasert Yamkulinfung	
			大都市バンコクでの家 族関係調査を試みて	兵庫県家族問題研究所研 究員 斧出 節子	

			家族病理の現象学的説明	大阪女子大学名誉教授 阪井 敏郎		
1993.3.22 ～24	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジェクトセミナー Seminar on Comparative Family Study	Session1 : American Family	米国・ミシガン大学社会 調査研究所教授 Arland Thornton		
			Session2 : Canadian Family	カナダ・プリティッシュ コロンビア大学教授 James Thornton		
			Session3 : Indonesian Family	インドネシア・科学研究 所研究員 Eniarti Djohan		
			Session4 : Japanese Family	杏林大学外国語学部教授 熊谷 文枝		
			Session5 : Chinese Family	中国・社会科学院研究員 張 萍		
1993.3.25	龍谷大学 瀬田学舎	第11回地総研セ ミナー	人口定住化問題を抱え る地域社会	山口大学教養学部助教授 辻 正二		
1992.9.～ 10. 毎週木曜 日計6回	龍谷大学 瀬田学舎	青少年相談カウ ンセリング講座			共催：滋賀県青 少年対策本部 REC	
1993	1993.4.14	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	家族変貌の総合的研究 序	龍谷大学社会学部教授 中 久郎	
	1993.4.28	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	韓国社会の家族変貌	龍谷大学社会学部助教授 山中美由紀	
	1993.5.26	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	サッチャー政権下の NHS	龍谷大学社会学部教授 松溪 憲雄	
	1993.6.23	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	祭祀財産の承継	龍谷大学法学部教授 甲斐道太郎	
	1993.7.7	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	政党派閥と二世議員の 増大	龍谷大学社会学部教授 居安 正	
	1993.11.24	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジ ェクト学内研究 会	ユダヤ人の家族—イス ラエルにおける問題点 をめぐって—	龍谷大学社会学部教授 児玉 昇	
	1993.11.27	龍谷大学 瀬田学舎	地総研セミナー 『東南アジアの 地域と家族』	働く高齢女性とその家 族	総合研究大学院大学 エニアルティ・ジョハン	
タイと日本の家族関係 に関する比較研究				兵庫県家族問題研究所研 究員 斧出 節子		
タイにおける都市と農 村の比較—家族生活を				チュラコンコン大学名誉 教授		

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

			中心として—	吉備国際大学 ブラサート・ヤムクリン フン		
1993.12.20	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジェクト 研究会	家族の宗教とかくれ念 仏	龍谷大学社会学部助教授 古賀 和則		
			東北タイと日本におけ る家族の比較—文化分 析の観点から—	龍谷大学社会学部教授 口羽 益生		
			イスラム世界における 家族生活	国立民族博物館名誉教授 片倉もとこ		
1994.2.19	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジェクト 家族研 究セミナー『ジェ ンダーをめぐる 諸論点』	母性と夫性	熊本大学 田間 泰子	報告者	
			女性の未婚化現象とこ れからの女性政策	麗澤大学 大橋 照枝	報告者	
			男らしさのゆくえ	大阪大学 伊藤 公雄	報告者	
				大阪女子大学 井上真理子	討論者	
				立命館大学 清野 正義	討論者	
				甲南女子大学 牟田 和恵	討論者	
1994.2.20	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジェクト 家族研 究セミナー『社 会の高齢化と家 族の変貌』	高齢者にとっての家族	愛知県立大学 神原 文子	報告者	
			家族の変貌	大阪市立大学 金屋 平三	報告者	
			ボランティア活動を考 える	流通経済大学 青井 和夫	報告者	
				愛知県立大学 四方 久雄	討論者	
				大阪女子大学 阪井 敏郎	討論者	
				甲南女子大学 牟田 和恵	討論者	
1994.3.25	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究セミナー『中国 社会と家族の現状』	中国社会と家族の現状	中国東北師範大学教授 谷 学謙		
1994	1994.5.20	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジェクト 家族研 究公開セミナー	日本の家族と宗教—外 部から見た50年の研究 を回顧して—	コーネル大学教授 Dr. Robert J. Smith	
	1994.5.25	龍谷大学 瀬田学舎	家族研究プロジェクト学内研 究会	性別役割意識研究の現 状と課題	龍谷大学社会学部講師 新田 光子	
	1995.1.28	龍谷大学 大宮学舎	家族研究プロジェクト 家族研 究セミナー	Determinant of Filial Behaviours among Adult Children	Universiti Pertanian Malaysia Dr. Tengku Aizan bt T. A. Hamid	Session 1 Malay Family

			Gender Perspectives of Malay Women at Work	Universiti Pertanian Malaysia Dr. Husna bt Sulaiman	Session 1 Malay Family
			The Impact of Urbanization and Industrialization on the Contemporary Thai Family	Chulalongkorn University Dr. Parasit Swasyart	Session 2 Thai Family
			Thai Family: A Socio—Demographic Characteristics	Chulalongkorn University Dr. Bhassorn Limanonda	Session 2 Thai Family
			(Discussants)	Hirosima City University Dr. Omar Farouk Bajunid	Session 3 Discussion
				Kibi International University Dr. Prasert Yamklinfung	Session 3 Discussion
1995.2.18	龍谷大学 大宮学舎	家族研究プロジェクト 家族研究セミナー	韓国の家族変貌	梨花女子大学講師 Dr. Ham In-hee	
			韓国家族法改正後の家族の動向	延世大学法学部教授 Dr. Kim Choo-soo	
			Family Consciousness in KOREA	韓国女性開発院主任研究員 Dr. Byun Wha-soon	
1995.3.11	龍谷大学 瀬田学舎	地総研共同研究(高津G)研究会	現代アメリカの農村	熊本大学助教授 蘭 信三	
1995	1995.9.30	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会福祉制度に関する比較研究関連セミナー	イギリスにおける社会福祉行政の現状と課題	大正大学教授 佐藤 進
	1995.6.4	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会福祉制度に関する比較研究関連研究会	アメリカ・オンブズマン制度と社会福祉制度	四国学院大学教授 宮崎 昭夫
	1995.7.30	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会福祉制度に関する比較研究関連研究会	アメリカの社会福祉関連法制	聖カタリナ女子大学助手 山野 尚美
	1995.11.5	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会福祉制度に関する比較研究関連研究会	政治史項目の資料提供と解説	京都大学助手 西山 伸
			チベットの社会福祉	種智院大学助手 宮城洋一郎	

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

1996.1.28	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会 福祉制度に関する比較研究関連 研究会	政治史項目の資料提供 と解説	京都大学助手 西山 伸	
1996.2.11	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会 福祉制度に関する比較研究関連 研究会	現代日本における社会 福祉と自由	筑波大学副学長 副田 義也	
1996.3.2	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会・社会 福祉制度に関する比較研究関連 研究会	共同研究会		
1995.7.8	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会, 家族 および宗教の関 係に関する比較 研究関連セミナ ー	アジアにおける家族, 地域社会および宗教	筑波大学客員教授 レスリー・E・パウゼン	
				龍谷大学教授 口羽 益生	
1995.12.1	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会, 家族 および宗教の関 係に関する比較 研究関連セミナ ー	在日韓国・朝鮮人にお ける家族, 地域社会及 び宗教	高麗大学校教授 金 應烈	
				淑徳大学助教授 田嶋 淳子	
				大阪市立大学助教授 谷 富夫	
1995.12.2	龍谷大学 瀬田学舎	地域社会, 家族 および宗教の関 係に関する比較 研究関連セミナ ー	東南アジアにおける地 域・家族および宗教	吉備国際大学教授 ブラサート・ヤムクリン フン	
				広島市立大学教授 オマール・ファルーク	

2) 国際社会文化研究所期 (1997年度～現在)

年度	年月日	場所	セミナー等の名称	タイトル	報告者所属 報告者	備考
1997	1997.11.7	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所開設記念シ ンポジウム アジアの経済発 展と文化	東南アジアにおける経 済発展と民主化	早稲田大学政治経済学部 教授 坪井 善明	
				アジアの文化と経営	上智大学比較文化学部教 授 猪原 英雄	
1998	1998.5.27	龍谷大学 瀬田学舎	1998年度第1回 研究報告会	日本と韓国における稲 作文化の比較研究	龍谷大学国際文化学部教 授 須藤 護 龍谷大学国際文化学部助 教授 朴 炫国	
				古代アジアの仏教文化 研究	龍谷大学国際文化学部教 授 上山 大峻 龍谷大学国際文化学部助 教授 嵩 満也 龍谷大学国際文化学部講 師 徐 光輝 龍谷大学国際文化学部講 師 稲葉 稔	
	1998.6.17	龍谷大学 瀬田学舎	1998年度第2回 研究報告会	Teachers' Knowledge and Computers: How Language Teachers Reflect on Practice	龍谷大学国際文化学部助 教授 ブラドリー・ウィリアム	
				A Report on Three Differnt European Economics in Transi- tion	龍谷大学国際文化学部教 授 シンプソン・ジェームズ 龍谷大学国際文化学部教 授 キグリチュ・イシュトヴ ァーン 龍谷大学国際文化学部講 師 斎藤 文彦	
1998.12.14	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所シンポジウ ム 東アジアの通貨 危機と将来—東 アジア経済の現 状と将来—	東アジアの通貨危機と 国際金融システムの新 たな展開	A. T. カーニー・アジア 担当特別顧問 木下 俊彦		
			東アジアの経済危機と 東アジアの経済発展モ デルの有効性	龍谷大学国際文化学部助 教授 木南 莉莉		
			東アジアの政治経済学	(財)国際開発高等教育機 構 主席研究員 Ng Chee Yuen		
			(モデレーター)	(財)国際開発高等教育機 構 国際開発研究センター 所長 高橋 一生		

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

1999	1999.5.10	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所講演会	新しい権利の創造に参 加して —日本国憲法の女性の 権利条項起草のいきさ つ—	ベアテ・シロタ・ゴードン	
	1999.5.23	龍谷大学 深草学舎	日独国際シンポ ジュウム	ドイツ社会文化状況と 社会文化センターの役 割—日本との比較社会 文化研究—	ハンブルグ市地域文化協 会・社会文化振興連盟機 関紙編集・広報担当 ケルスティン・ホフ 建築家 ウルリッヒ・トールマン 京都 NPO センター事務 局長 深尾 昌峰 (コメンテ ーター) 東京外国語大学助教授 谷 和明 (コメンテ ーター)	
	1999.12.2 ~4	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所国際シンポ ジュウム	芸道・武道における 「型」からシステム編 成原理としての「型」 へ	Technical University at Ilmenau, Germany Dr. Frank Peschanel Ohio State university, USA Dr. Hisako Koizumi University of Neuchatel, Switzerland Professor Eric Schwarz University of Windsor, Canada Professor George E. Lasker 龍谷大学国際文化学部教 授 幸泉 哲紀 (モデレー ター) 龍谷大学国際文化学部助 教授 サルズ・ジョナ (モデ レーター)	
2000	2000.12.4	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所 講演会	昔話の比較文化論：臨 床心理の立場から	吉備国際大学教授 杉岡津岐子	
	2001.2.24	龍谷大学 深草学舎	韓日国際シンポ ジュウム	韓国における市民運動 (社会文化運動)につ いて 『文化の家』の理念と 活動および運営形態に ついて	全南大学校教授 羅 看采 光州市北区文化の家常任 委員 金 溟均	協力 社会文化 学会西部部会

				社会文化および社会文化運動の韓日比較研究について	龍谷大学経営学部教授 大阪学院大学助教授 重本 直利 吉田 正岳
				コーディネーター	社会文化学会運営委員 結川 純子
2001	2001.10.29 ～11.1	龍谷大学 瀬田学舎	Multi Cultural Festival	美しい日本の中の私～ 私のアイデンティティ と文明観～	龍谷大学社会学部助教授 李 相哲
				近代日本とアジア～魯 迅および石原莞爾を通 して～	評論家 佐高 信
				ジャワ舞踏	佐久間 新 ウィヤンタリ
				韓国の民族楽器「カヤ グム」演奏	龍谷大学国際文化学研究 科 李 美香
				中国の民族楽器「古 箏」演奏	蔡 愛琴
				キムチを漬けてみる	韓 正眞
				中国の茶道「工夫茶」	中国茶室 雅趣 邱 少龍
				茶道「藪内流」	茶道部釣寂会
				華道「池坊」	池坊華道部
2002	2002.11.1	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所シンポジウ ム 日韓両国におけ る家族の現在 (いま)	韓国における家族の現 状と家族法の動向	韓国 慶熙大学校法科大 学教授 金 曠洙
				日本における家族の現 状と家族法の動向	広島大学名誉教授 中川 淳
				司会	龍谷大学社会学部教授・ 研究所事業部主任 田中 滋
	2002.11.2	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所研究会	集団主義からコジンシ ュギへー住居からみた 日本の家族関係ー	龍谷大学国際文化学部助 教授 ポーリン・ケント
			世帯間共同の実態：ド ンデーン村を事例とし て	龍谷大学社会学部教授 舟橋 和夫	
			『インドネシア・フロ ーレス島における家 族』のための理論的習 作	龍谷大学社会学部教授 青木恵理子	
			司会・進行	龍谷大学社会学部教授 山中美由紀	

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

2003	2003.10.22	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所シンポジウ ム 日本のアジア報 道・アジアの日 本報道	日本マスコミの北朝鮮 関連報道	韓国・東亜日報 東京支 社長 金 忠植	
				インターネットがもた らす中国世論環境の変 貌とその中の日本関連 情報	中国・人民日報 網路中 心：インターネットセン ター日本代表処代表, 日 本語編集部編集長 孫 盛林	
				『日本の物語』として の東南アジア報道	神田外語大学教授, イン ターネット新聞「日刊ベ リタ」代表, 元毎日新聞 バンコク特派員 永井 浩	
				司会兼問題提起者	龍谷大学国際文化学部教 授 卓 南生	
2003.12.5	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所研究会 外来文化の受容 と変容	文化移転と変容の型	龍谷大学国際文化学部教 授 幸泉 哲紀		
			南インドのイスラーム 初伝伝説について	京都大学人文科学研究所 助教授 稲葉 譲		
			仏教文化の伝播と変 容：スリランカの場合	龍谷大学国際文化学部教 授 嵩 満也		
			仏教文化の伝播と変 容：タイと韓国の場合	龍谷大学国際文化学部教 授 幸泉 哲紀		
			教育文化の移転と変 容：韓国における新し い授業モデルの導入と 実践	龍谷大学国際文化学部教 授 権 五定		
2004	2004.6.30	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第1回研究 会	原爆と寺院の社会的 研究	龍谷大学社会学部教授 新田 光子	
				戦後日本の健康至上主 義	龍谷大学社会学部教授 黒田浩一郎	
	2004.10.27	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第2回研究 会	ビオトープのある学校 作り～地域住民との協 働による環境教育実践 ～	安土町教育委員会 関川 雅之	
				環境破壊は人間破談で ある～人間の営みをビ オトープ活動を通して 考える～	龍谷大学社会学部教授 金子龍太郎	
2005	2005.7.7	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第1回研究 会	アメリカにおけるマン ガ受容の新たな展開— Shoujo をめぐって—	龍谷大学国際文化学部助 教授 松居 竜五	
				Images of a Gendered Japan: Geisha as Pro totype	龍谷大学国際文化学部教 授 ブラドリー・ウィリアム	

2006.1.17	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第2回研究 会	産業化と犯罪—滋賀県 市町村の変容と実態	社会学部助教授 津島 昌弘	
			イギリスにおける若者の ボランティア事情	国際文化学部助教授 古川 秀夫	
2005.12.8	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所シンポジウ ム 国境を越えた村 おこし—日本と 東南アジアをつ つなく実践—	小さな国東ティモールの 大きな資源—みんな で考えるコーヒー豆の 活かし方—	国立民族学博物館地域研 究企画交流センター助教 授 阿部 健一	
			フィリピン山村の植林 運動—先住民と NGO をつなく草の根国際協 力—	九州大学大学院比較社会 文化研究院教授 清水 展	
			日本とインドネシアの 山村の知恵を結ぶ—コ モンズの保全をめざし て—	いりあい・よりあい・ま なびあいネットワーク共 同代表 島上 宗子	
			司会	龍谷大学社会学部教授 加藤 剛	
2006	2006.11.10	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第1回研究 会	食のグローバル化とそ の諸問題に関する考察	龍谷大学社会学部講師 村澤真保呂
				美意識比較空間の創 造：PACKAJ セミ ナー 2005年	龍谷大学国際文化学部教 授 サルズ・ジョナ
2007.2.26	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第2回研究 会	フィールドワークによ る南方熊楠の足跡調査 とビデオ撮影	龍谷大学国際文化学部助 教授 松居 竜五	
2006.12.4	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所シンポジウ ム もっと知ろう!! 私たちの隣人— 新来外国人居住 者と日本社会—	新来外国人をめぐる日 本の現状—受け入れ政 策と居住の現状—	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部助教授 石井 由香	
			地域に根付くフィリピ ン人とコミュニティ— 名古屋の事例—	広島国際学院大学現代社 会学部専任講師 高畑 幸	
			〈多文化〉化する都市 空間—新宿区大久保—	法政大学工学部兼任講師 稲葉 佳子	
			滋賀県在住の日系ブラ ジル人労働者と家族— 子どもの教育を中心に —	龍谷大学大学院国際文化 学研究科博士後期課程 松尾 隆司	
			司会	龍谷大学社会学部教授 加藤 剛	
2007	2007.11.21	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所第1回研究 会 ジャーナリズム をとらえ直す	日中ジャーナリズム交 流史の系譜	龍谷大学国際文化学部教 授 卓 南生
				オンライン・ジャーナ リズムの主役は誰か? —変わるニュース、 変	龍谷大学社会学部准教授 小黒 純

2. 研究セミナー・研究会・シンポジウム一覧

			わらないニュース			
2007.12.12	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研究 所第2回研究会 地域社会の新たな 関係構築を目指して	世界の子どもたちを救 う国際組織 SOS 子どもの村を日 本に導入するために一 世論の喚起をめざす一 研究者の挑戦一	龍谷大学社会学部教授 金子龍太郎		
			子どもと大人、そして 自然との共生に関する 視点	龍谷大学国際文化学部教 授 壽崎かすみ		
2008.1.18	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研究 所第3回研究会 文化の動態一混 交・移植・再生一	インドネシア・フロー レス島のカトリック教 徒：アイデンティティ とグローバリゼーショ ン	龍谷大学社会学部教授 青木恵理子		
			本願寺派による初期ハ ワイ開教と非日系人開 教の誕生	龍谷大学国際文化学部教 授 嵩 満也		
			熊野をめぐる観光のま なざしの変遷一国立公 園から世界遺産へ	龍谷大学社会学部教授 田中 滋		
2007.12.20	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研究 所シンポジウ ム 古代東アジアの 文化交流から学 ぶ一温故知新一	九世紀の東アジア海上 交易	仏教大学講師 松波 宏隆		
			4世紀～5世紀中葉に おける中国仏像の広が り	中国国家文物出境鑑定河 北站 劉 建華		
			唐と渤海の交流につい て一旅順の唐鴻臚井摩 崖石刻文字を中心に一	中国旅順博物館 王 若		
			夏一商代（紀元前15～ 11世紀）の青銅器の広 がり	台湾中央研究院歴史語言 研究所 内田 純子		
			司会	龍谷大学国際文化学部教 授 徐 光輝		
2008	2008.7.10	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研究 所第1回研究会	声・メディア・虚構の 身体？一初音ミクと Perfume はどのよう に異なっているのか一	大阪市立大学大学院文学 研究科准教授 増田 聡	
	2008.11.28	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研究 所第2回研究会 変容する日本の イメージ	桃太郎はいつ、どのよ うにして日本一になっ たか 海外における日本マン ガの受容	龍谷大学国際文化学部教 授 佐々木英昭 龍谷大学国際文化学部准 教授 松居 竜五	

2009.1.20	龍谷大学 瀬田学舎	国際社会文化研 究所シンポジウ ム 子育て支援と虐 待防止の新しい 視点一日・英・ 米の取り組み一	米国の児童虐待防止研 究と児童相談	神戸流通科学大学教授 加藤 曜子	
			英国の子育て支援政策	龍谷大学社会学部教授 清水 隆則	
			日本の教育コミュニテ ィ運動	兵庫県立大学准教授 高田 一宏	
			司会	清水 隆則	

3. 紀要等目次一覧

1) 『地域総合研究』(1989～1996年度)

創刊号 1991年3月

地域概念について

——『地球総合研究』の発刊に寄せて——……………口 羽 益 生 (1)

研究プロジェクト：スーパービジョンの理論と実際

スーパービジョンの支持的側面

——ワーカーの燃えつき現象 burn-out を中心として——……………黒 川 昭 登 (6)

ワーカーからスーパーバイザーへ

——その役割移行に伴う諸問題——……………石 田 敦 (21)

研究プロジェクト：地域社会の生活構造と住民意識の動態研究

金堂の自然・社会環境研究序説……………舟 橋 和 夫 (29)
千 葉 紀 子

金堂の経済

——地域農業を中心として——……………桑 田 晃 男 (50)

人口動態と世帯構成の変化

——五個荘町金堂の事例的研究——……………松 下 敬 一 郎 (61)

金堂の高齢者家族

——子世代のUターンが意味すること——……………玉 里 恵 美 子 (76)

金堂地区における社会的参加と政治・行政機構……………磯 部 裕 (93)

金堂の宗教生活……………古 賀 和 則 (103)
西 光 義 秀
山 本 哲 司

第2号 1992年3月

研究プロジェクト：地域社会の生活構造と住民意識の動態研究

論 文

伊野部における自然・社会環境の特徴……………舟 橋 和 夫 (1)
千 葉 紀 子

小地域人口・世帯の比較分析……………松 下 敬 一 郎 (24)

伊野部の宗教生活

——ムラごととしての宗教の素描——……………古 賀 和 則 (37)
西 光 義 秀
山 本 哲 司

研究ノート

湖東農村の家族構成推移

- 滋賀県五個荘町伊野部と金堂の事例研究——……………玉里恵美子(76)
- 伊野部区における社会的参加と政治・行政機構……………磯部 裕(94)
- 近江商人の宗教倫理
- 三代目塚本喜左衛門の企業家精神——……………窪田和美(103)
- 英文要約

第3号 1993年3月

研究プロジェクト：現代日本家族の変貌に関する総合的研究—国際比較の視点を中心に—

論文

- 家族変動論あれこれ……………上子武次(1)

研究プロジェクト：地域社会の生活構造と住民意識の動態研究

論文

村落社会における宗教講の機能

- つながりの構造と強化——……………古賀和則(12)

親族の機能

- 滋賀県五個荘町伊野部の事例報告——……………玉里恵美子(24)

研究ノート

伊野部農業の変化過程

- 農作業の聞き取り調査から——……………千葉紀子(43)

研究プロジェクト：日米社会福祉比較研究—児童・家族を中心に—

論文

- 分離不安型登校拒否とその予後……………黒川昭登(54)

低年齢児の登校拒否と分離不安

- 母子関係の治療例を通して——……………奥平俊子(70)

資料・報告

- スーパービジョンに学ぶ……………中川泰彦(79)

研究プロジェクト：社会福祉・地域福祉の対象についての研究

論文

- 社会事業対象論……………中垣昌美(86)

生活保護の対象と現代的課題

- 第三次「適正化」を中心に——……………長上深雪(93)

英文要約

第4号 1994年3月

研究プロジェクト：日米社会福祉比較研究—児童・家庭を中心に—

論 文

- 自立支援と医療ソーシャルワーク……………児島美都子(1)
- 知的障害者の家族援助に関する日米比較……………村井龍治(12)
- スクールソーシャルワークの機能とわが国の学校教育にとってのその意味……石田敦(20)

研究プロジェクト：現代日本家族の変貌に関する総合的研究—国際比較の視点を中心に—

論 文

不登校現象と早期教育

- その現象学的考察—……………阪井敏郎(29)

ボンドックにおける家族生活

- 半島マレーシア北部の事例から—……………坪内玲子(41)

- The Status of Women in the Thai Family……………プラサート・ヤムクリンフン(54)

研究プロジェクト：琵琶湖干拓農業と村落構造—滋賀県湖東大中の場合—

論 文

琵琶湖干拓農業と村落構造

- 湖東・大中(北部・西部・南部集落)の概要—……………笠原成郎(60)
- 笠原正嗣

モデル干拓農村における後継者問題

- 滋賀県大中湖北部集落(能登川町)の考察を通して—……………吉田秀和(80)

研究プロジェクト：滋賀県の地域レベルにおける労働力移動と社会的構造の変動に関する実証的研究

論 文

- 滋賀県における最近20年間の都市化と農村変容に関する予備的分析……………広岡博之(99)

英文要約

第5号 1995年3月

研究プロジェクト：現代日本家族の変貌に関する総合的研究—国際比較の視点を中心に—

論 文

American Research on the Japanese Family:

- How the Agenda Has Changed in the Last Fifty Years……………ロバートJ.スミス(1)

働く高齢女性とその家族

- ジャワ更紗産業に従事する女性の事例研究—……………エニアルティ・ジョハン(10)

結婚・性・家族生活の変動

- アメリカの場合—……………アーランド・ソーントン(26)
- 〈翻訳：玉里恵美子〉

- カナダの家族について……………ジェームス・ソーントン(36)
- 〈翻訳：玉里恵美子〉

研究プロジェクト：地域社会、家族及び宗教の関係に関する比較研究

論文

マヤ・ユカテカの一村落マニにおける儀礼的親子関係……………中別府 温和 (53)

研究プロジェクト：日米社会福祉比較研究—児童・家族を中心に—

論文

ターミナルケアをめぐる英・米・加と日本との比較……………奈倉 道隆 (65)

養護施設における児童の社会性の育成に関する一試案

—双方向コミュニケーションスキルの有効性—……………山下 和夫 (73)

研究プロジェクト：地域社会・社会福祉制度に関する比較研究

論文

近江国と賑恤施策……………宮城 洋一郎 (82)

特養入所者の選挙権……………鶴沼 憲晴 (92)

研究プロジェクト：琵琶湖干拓農業と村落構造—滋賀県湖東大中の場合—

論文

干拓地農村にみる生活と宗教

—滋賀県大中の湖入植農家の事例—……………窪田 和美 (101)

研究ノート

大中の湖干拓農村における営農組織……………笠原 正嗣 (115)

モデル農村のコミュニティーと農業後継者

—干拓モデル農村の考察より—……………吉田 秀和 (139)

研究プロジェクト：滋賀県の地域レベルにおける労働力移動と社会的構造の変動に関する実証的研究

論文

滋賀県における農家労働力構造の変動

—因子分析による1970年から1990年の変化—……………丸岡 (河村) 律子 (156)

英文要約

第6号 1996年3月

研究プロジェクト：現代日本家族の変貌に関する総合的研究

論文

家族変貌研究のための視座構成……………中 久 郎 (1)

資料・報告

大学生の結婚観

—関西の並列統計研究—……………高津 等 (15)
岡本 晴行

研究プロジェクト：地域社会、家族および宗教の関係に関する比較研究

論文

Buddhism and Change in Family Life in Modern Thailand……プラサート・ヤムクリンフン (27)

The Polity, The Family and Islam:

Dynamics and Dilemmas of Development in Malaysia……………オマール・ファルーク (41)

The Family, Society, and Religion in Their Historical

and Contemporary Aspects in the Philippines……………レスリー・バウソン (61)

The Structure and Function of Ritual Kinship in a Mayan-Yucatecan

Catholic Community MANI……………中別府 温和 (77)

資料・報告

A Comparative Study of Family Consciousness in Rural Malaysia,
Thailand and Japan

—AN Interim Report—……………口羽 益生 (97)

研究プロジェクト：地域社会・社会福祉制度に関する比較研究

資料・報告

米国長期ケアオンブズマン制度研究

—その有効性—……………高谷 よね子 (127)

研究プロジェクト：滋賀県と他府県の住民意識の比較研究

研究ノート

永源寺第2ダム反対運動と住民組織に関する一考察……………水間 みどり (137)

研究プロジェクト：高齢化する地域社会の実態調査研究

論文

地域人口の特徴

—山形県西川町の事例—……………松下 敬一郎 (153)
松田 武志

Population Growth, Women's Status, and Quality of Life

in Medium-Sized Asian Cities: Urban Administrators' Views……………マーティン・スタック (167)
松下 敬一郎

資料・報告

合衆国における高齢化社会調査研究

—AHEADの成果—……………春山 文枝 (175)
松下 敬一郎

第7号 1998年3月

研究プロジェクト：地域社会、家族及び宗教の関係に関する比較研究

論文

An Inquiry into the Social Basis of Positive Attitudes Toward Religion:

The significance of age-graded parish organizations

as adult socialization agents……………森岡 清美 (1)

Beyond secularization: The Emergence of Buddhist

Alternative Development Praxis in Thailand……………Surichai WUN'GAEO (11)

研究プロジェクト：滋賀県における地域福祉に関する総合的研究

論 文

滋賀県における高齢者施策の現状と課題……………長 上 深 雪 (19)

研究プロジェクト：地域社会・社会福祉制度に関する比較研究

論 文

米国長期ケアオンブズマン制度研究

——高齢者在宅サービスへの拡充——……………高 谷 よ ね 子 (33)

研究ノート

グループホームの住環境基準モデル

——オレゴン州のアダルトフォスターケアプログラムを参照して——……真 鍋 顕 久 (45)

研究プロジェクト：京滋地域の大学転出と誘致に関する研究

論 文

京滋地域の大学転出と誘致に関する研究……………村 田 鈴 子 (55)

2) 『地域総合研究所資料集』

資料集 1 1991年 1月

地域社会の生活構造と住民意識の動態研究

第1部 金堂調査現地報告会資料

1. 「金堂の自然と環境」……………舟 橋 和 夫
2. 「金堂の経済生活」……………桑 田 晃 男
3. 「金堂の人口と世帯」……………松 下 敬 一 郎
4. 「金堂の家族」……………玉 里 恵 美 子
5. 「金堂の政治と社会」……………磯 部 裕
6. 「金堂の歴史と文化」……………窪 田 和 美
7. 「宗教生活の差異と類似」……………西 光 義 秀

第2部 CS通信集 (No. 1～ No. 18)

- 付 録 金堂概略地図
金堂小字地図

資料集 2 1993年 3月

社会福祉関係法令通知年表

——社会福祉・地域福祉の対象についての研究——

3) 『国際社会文化研究所紀要』(1997年度～現在)

創刊号 1999年3月

(1) 古代アジアの仏教文化交流についての総合的研究

- 古代アジアの仏教文化交流についての総合的研究……………上山大峻(1)
 嵩満也
 稲葉穰
 徐光輝
- 5～6世紀中国東方沿海地域における仏教僧の動向……………稲葉穰(3)
- 古代アジアの仏教文化交流についての総合的研究
 ——中国北方仏教文化遺跡調査報告書——……………徐光輝(9)
- 山東省靈岩寺遺跡と北方仏教についての研究報告……………嵩満也(17)
- 中国青州龍興寺破棄仏像考……………上山大峻(23)

(2) 東欧における3つの移行期経済の比較研究

- Agriculture in Transition: the Czech Republic, Hungary and Poland……………James R. Simpson (29)
- Comparative Analysis of the Selected Transitional Economies in Central Europe:
 Hungary, the Czech Republic and Poland……………Fumihiko Saito (41)
 Istvan Kiglics

(3) 家族生活と高齢者問題に関する比較研究

- 調査の概要……………口羽益生(55)
 プラサート・ヤムクリンフン
 窪田和美
 中西尋子
 寺田憲弘
 甲斐靖之
- 家族生活と高齢者問題に関する比較研究
 ——滋賀県五箇荘町川並の調査報告——……………窪田和美(57)
 甲斐靖之
- 韓国の一農村における家族意識
 ——全羅北道淳昌郡南山マウルでの調査から——……………中西尋子(71)
- タイ農村における家族調査に関する報告……………プラサート・ヤムクリンフン(81)
 (松田恵利子訳)

(4) 社会福祉サービスとニーズ適合性に関する研究

- 滋賀県下市町村の比較研究を通じて——
 地域福祉における在宅介護支援センターの課題
 ——「在宅介護支援センター実態調査結果」を手がかりに——……………長山深雪(111)

(5) スリランカにおける世帯の親族構造

- 滋賀県経済の将来予測……………藤井大輔(125)
 松下敬一郎
- スリランカ農村の世帯構成の特徴……………松下敬一郎(139)

(6) 社会化論の再検討			
超個体化としての遊び	桐	田	克利 (145)
サックスとファンタジーと遊び	山	田	富秋 (155)
(7) 南九州におけるかくれ念仏の研究			
カヤカベの現況	古	賀	和則 (165)
		中	別府 温和
(8) 大都市周辺地域の高等教育問題に関する研究			
——滋賀県と栃木県の場合——	村	田	鈴子 (187)
(9) 香港の中国返還をめぐる現地マスコミの論調についての考察			
——『明報』社説を中心にして——	卓		南生 (201)
(10) Teachers' Knowledge and Computers: How Language Teachers Reflect on Practice			William Bradley (223)
(11) 日本と韓国における稲作文化の比較研究			
はじめに	須	藤	護 (257)
		朴	炫 国
		金	鎮 国
		孫	鐘 欽
稲作の栽培環境 (日本)	須	藤	護 (259)
稲作の栽培環境 (韓国)	金	鎮	国 (263)
稲作の作業工程 (日本)	金	鎮	国 (267)
稲作の作業工程と用具 (韓国)	須	藤	護 (275)
稲作の生産儀礼 (日本)	須	藤	護 (285)
稲作の生産儀礼 (韓国)	朴	炫	国 (293)
농사와 관련이 있는 韓國의 정월 보름 행사	孫	鐘	欽 (305)
벼농사의 방법과 이와 관련이 있는 행사	孫	鐘	欽 (315)

第2号 2000年11月

コラボレーション (協同作業) 環境におけるコミュニケーションとアイデンティティ			
——「ON プロジェクト」の定性的評価——	加	藤	文 俊 (1)
	長	岡	健
介護関連従事者の介護観とその成長発達に関与する影響要因の因子構造論的研究			
——近畿の老人福祉及び老人保健福祉施設職員を対象として——	福	崎	哲 (17)
	岡	本	民 夫
	加	納	克 己
環日本海における仏教文化の交流	嵩	満	也 (41)
	徐	光	輝
(1) 環日本海における仏教文化交流の一考察			
——渤海の仏教文化を中心に——	嵩	満	也 (43)

(2) 高句麗の仏教文化について ——集安市長川1号古墳壁画を中心に——	徐 光 輝 (55)
Transmission, Reconstruction, and Innovation in Traditional Japanese and Korean Dance-theatre	Jonah Salz (67) Laurence Kominz Hyun kuk PARK
(1) Creative Continuity and Dynamic Instability	Jonah Salz (69)
(2) Reviving Genroku Kabuki : Observations of the Revival Process and Panel Presentation by the Director, Yamada Shoji	Laurence Kominz (87)
(3) 한국 춤의 전통과 부활 ——김경주 교수의 춤을 중심으로——	朴 炫 國 (89)
アジアのエネルギー安定供給, 安全保障と天然ガス貿易の役割	松 井 賢 一 (93) 大 沢 晃 唐 沢 敬 インヤ・パイク 武 井 満 男
日・中・韓三ヶ国の漢字語の比較	龐 春 蘭 (105) 朴 炫 国 徐 益 煥
Being a "Good Student" in Japan and Australia	Stephen M. Ryan (123) Michael Furmanovsky
中国における社会開発	木 南 莉 莉 (141)
Decentralization in Uganda: Toward a Positive-Sum Solution	Fumihiko Saito (167)
近世日本の教会建築について	宮 元 健 次 (191)
飛驒の白川村今昔 ——社会学的研究序説——	小 笠 原 真 (223)
韓国の女性労働とM字型就業構造の特性	山 中 美 由 紀 (233)
Commercial Pig, Broiler and Laying Hen Farm Structure in China, 1996	James R. Simpson (247) Youlong Shi Ou Li Weisheng Chen Shuxia Liu
The Effectiveness of the Direct Recommendation System for Compliance with Human Rights Treaties : Japan and the International Covenant on Civil and Political Rights	Sylvia Brown Hamano (271)
研究ノート	
カヤカベ信仰の浄土志向性について ——オザとキリシマメリを中心として——	古 賀 和 則 (293) 中 別 府 温 和
Rassapana 村の人口・世帯構成の変化1988-96年	松 下 敬 一 郎 (305)

第3号 2001年2月

阪神・淡路大震災からの学び

- 社会的支援サービスの構築を目指して——……………佐々木政人(1)
 原田多美子
 溝渕 淳
- ボランティア団体参加者の意識と動機づけ……………古川秀夫(19)
 大東貢生
 大山治彦
 柴田和子
- (1) 国際ボランティア団体の組織と活動
- 序 説——……………古川秀夫(23)
 大東貢生
 大山治彦
- (2) 国際ボランティア団体の求めるボランティア……………大山治彦(31)
 古川秀夫
 大東貢生
- (3) 国際ボランティア団体の組織と活動
- 活動する上での障害から——……………大東貢生(45)
 大山治彦
 古川秀夫
- (4) 震災ボランティアの意識と行動
- 回顧と現在——……………柴田和子(59)
 古川秀夫
- 日中稲作文化の比較研究
- 雲南の少数民族を訪ねる旅から——……………須藤 護(69)
 朴 炫 國
- 日中稲作文化の比較研究
- 中国雲南省の稲作遺跡を中心として——……………徐 光 輝(127)
- 老親扶養の国際比較(中間報告)
- 日本・韓国・タイ国・スリランカの意識調査から——……………舟橋和夫(145)
 窪田和美
 中西尋子
 松田恵利子
 甲斐靖之
 K. A. P. シディセナ
- Analysis of Stem Volume Distribution in Even-aged Jack Pine Stands
 in Wood Buffalo National Park, Canada……………A. Osawa(205)
 N. Kurachi
 M. Miyaura
 T. Miyaura
 H. Yamada

ドイツにおける社会文化および社会文化センターに関する総合研究序説……重本直利 (247)
谷和明

「民族と秩序」に関する研究序説

——中国朝鮮族社会の形成と変遷過程における

アイデンティティ問題を中心に——……………李相哲 (271)
舟橋和夫
新田光子

Social-Economic Imbalance in the Process of Economic Development:

The Case Study of China……………Lily Y. Kiminami (289)

First Steps of Euro: Account of a Currency Introduction……………Kiglics István (301)

ポスト・モダンの社会運動

——長良川河口堰建設反対運動の歴史的变化とその構図——……………田中滋 (325)

米ミルズ・カレッジケースの考察……………村田鈴子 (351)

The Morning After: The Responses of Three Major Powers to Concluding

Observations by the Human Rights Committee……………Sylvia Brown Hamano (361)

日本建築の配置における北斗七星思想の影響について……………宮元健次 (369)

フランス・アルザスの宗教事情……………市村卓彦 (395)

旅順博物館蔵大谷探検隊将来資料について……………上山大峻 (407)
三谷真澄

“あたらしいフィールドノート”の作成

——地域研究のための画像データベースのデザインに関する研究——……………加藤文俊 (429)

Kata in Arts and Systems……………Tetsunori Koizumi (441)

Jonah Salz

Hisako Koizumi

Frank Peschanel

Eric Schwarz

George E. Lasker

研究資料

Katafication: Form, Reform, Deform in Traditional Arts……………Jonah Salz (465)

第4号 2002年3月

バリ島における「型」……………須藤護 (1)
朴炫国
幸泉哲紀
ジョナ・サルズ
シャピロ萌奈

住まいと住まい方の型

——バリ島を中心にして——……………須藤護 (5)

近江八幡의 사기쥬 (左義長) 와 발리의 오고오고 (OGOHO)

행진 (行進)……………朴炫国 (11)

Adoption and Adaptation of an Imported Culture:

The Case of Balinese Hinduism Tetsunori Koizumi (17)

Kata in Bali Project article Peeling the onion: Preliminary notes

on doing fieldwork in Bali Jonah Salz (27)

研究資料

Impression of the Tropical Island, Bali, from a Beginning

Fieldworker's Viewpoint Mona R. Shapiro (41)

共同研究報告：韓国における「文化の家」と社会文化運動（市民運動）の

現状と課題 重本直利 (51)
吉田正岳

Grassland Development in China: Use of the

Participatory Rural Appraisal (PRA) Research Method James R. Simpson (81)
Ou Li
Fu-Ping Li

高齢者扶養の意識構造

——多変量解析による国際比較研究の試み—— 舟橋和夫 (95)

高齢期を生きる

——家の継承をめぐる—— 窪田和美 (111)

일(日)・중(中)・한(韓)의 한자(漢字) 반대어(反対語)

비교(比較) 연구(研究) 龐春蘭 (131)
朴炫国
徐益煥

「子どもの文化人類学」試論

——インドネシア・フローレス島における

20余年にわたるフィールドワークに基づいて—— 青木恵理子 (163)

「開かれた対人系」として見る生涯発達

——児童福祉施設出身者の半生から

虐待の世代間連鎖を防ぐモデルを見出す—— 金子龍太郎 (185)

Ever weakening EURO? Second Year from Introduction:

an Account of Events around the New Currency Kiglics István (201)

沖縄と韓国の綱引き 朴炫国 (219)

沖縄建築の配置計画における陰陽五行説の影響について 宮元健次 (233)

中国朝鮮族にみる民族社会の変動

——改革開放後の朝鮮族ジャーナリズムの変遷を中心に—— 李相哲 (243)

韓国農村の人口流出と残留高齢者の家族関係 山中美由紀 (263)
中西尋子

世帯間共同再考

- タイ東部天水田農村に見る——……………舟 橋 和 夫 (1)
 Childcare; Social Division of Labor and Its Public Implications……………CHANG, Hwakyung (19)
 農業構造調整の国際的比較

- 農地制度の改革を焦点に——……………木 南 莉 莉 (29)
 ネルソン・ビルズ

Economic and Institutional Structural Analysis of Semi-Nomadic Pastoralists

- in the Extreme Northwest of China……………James R. Simpson (37)
 Ou Li
 Fu Ping Li

共同研究総括報告：韓国における社会文化および「文化の家」に関する総合研究

- 地域コミュニティと市民社会形成に関する
 比較思想および経営組織論からの研究——……………重 本 直 利 (53)
 吉 田 正 岳

- 古代日本と中国北方地方・朝鮮半島の仏教文化交流の研究……………嵩 満 也 (93)
 徐 光 輝

- 朝陽北塔と遼代仏教……………嵩 満 也 (95)

- Putting Online Filmography to the Test……………Noel M. Terhune (107)
 Michael J. Shawback

- 日韓村祭りの比較研究……………金 在 用 (137)
 朴 炫 国
 ジョナ・サルズ
 金 鎮 国
 須 藤 護

- (1) 韓国の洞祭と豊饒原理……………金 在 用 (138)

- (2) 日本・韓国・バリの獅子舞……………朴 炫 国 (151)
 ジョナ・サルズ
 金 鎮 国

研究ノート

- (3) 韓国青陽郡松鶴里のチャンスン祭と洞火祭……………須 藤 護 (169)

地域と大学の連携の試み

- まちづくりと大学——……………大 山 治 彦 (179)
 柴 田 和 子
 湯 川 宗 紀

研究ノート

- 「学生のボランティア活動に関する意識調査」中間報告……………湯 川 宗 紀 (191)
 柴 田 和 子
 大 東 貢 生
 大 山 治 彦
 古 川 秀 夫

子どもの養育の近代的二律背反と身体的実践

——インドネシア・フローレス島における事例を中心に——……………青木恵理子 (211)

ローマにおけるヴィスタとパースペクティヴの手法について

——バロック期の都市・建築・庭園を中心に——……………宮元健次 (231)

集まりへの不寛容

——戦後日本の民主警察における群集観と

群集コントロール戦術の発達——……………吉田竜司 (261)

研究ノート

中国におけるジャーナリズムの研究

——ジャーナリズム研究における主要争点を中心に——……………李相哲 (277)

2002 龍谷大学 国際社会文化研究所シンポジウム

日韓両国における家族の現在…………… (289)

・韓国における家族の現状と家族法の動向……………金 曠 洙 (290)

・日本における家族の現状と家族法の動向……………中 川 淳 (300)

第6号 2004年3月

現代的ネットワークにもとづく流域社会の再構築の可能性

——京都府美山町を事例として——……………田 中 滋 (1)
水垣源太郎

流域社会への視座

——ナショナライゼーション論とリスク論を中心として——……………田 中 滋 (2)

市町村合併のイベント・ヒストリー分析……………水垣源太郎 (43)

長江流域の農耕集落について……………徐 光 輝 (57)
林 留 根

中国江南地方の稲作……………須 藤 護 (71)

亜洲稲作起源研究的回顧……………尹 紹 亭 (86)

南方熊楠の『ネイチャー』掲載論文について……………松 居 竜 五 (93)
小 泉 博 一

南方熊楠初期英文論文の周辺——関連資料解説——……………松 居 竜 五 (98)

地方分権時代における市民活動と大学の連携……………古 川 秀 夫 (117)

大 束 貢 生
柴 田 和 子
大 山 治 彦
田 中 滋 菊
福 田 菊

ボランティア活動の動機における自発性と外発性……………柴 田 和 子 (119)

大 束 貢 生
大 山 治 彦
古 川 秀 夫

ボランティア団体のニーズと大学生の意識との間の乖離……………	古川秀夫 (132)
	大束貢生
	田中滋
	福田菊
ボランティア・イメージと活動経験の連関性……………	大束貢生 (146)
	柴田和子
	湯川宗紀

ON THE FORMS OF CULTURAL TRANSMISSION

AND TRANSFORMATION……………	Tetsunori Koizumi (157)
南インド・スリランカのイスラーム初伝伝説について……………	稲葉 稜 (165)
「スリランカにおける宗教の受容と変容」に関する研究ノート	
——シンハラ仏教と神霊信仰との関係を中心にして——……………	嵩 満也 (173)

ADOPTION AND ADAPTATION OF AN IMPORTED CULTURE:

BUDDHISM IN THAILAND AND KOREA……………	Tetsunori Koizumi (179)
教育文化の移転と変容：韓国における新しい授業モデルの導入と実践……………	権 五 定 (195)
ソーシャルワーカーへの支援スキル訓練の研究	
——コンピュータ・シミュレーションを用いた実践教育の展開——……………	太田義弘 (209)
	野澤正子
	中村佐織
日本の中国占領とジャーナリズム (中間報告)……………	卓南生 (225)
	陳昌鳳
	劉揚
	程曼麗
	李相哲

その一 中国における日本占領と世論操作

1. 南京「国民政府宣伝部」の新聞論とその治下の新聞……………	卓南生 (226)
2. 『新民報』に関する研究……………	陳昌鳳 (243)
	劉揚
3. 『華北新報』に関する研究……………	程曼麗 (256)

その二 日本統治下東北アジアのジャーナリズム

——ハンゲル新聞を中心に——……………	李相哲 (265)
---------------------	-----------

Community Environmental Conservation in Uganda:

Possibilities and Limitations of Decentralized Management……………	Fumihiko SAITO (283)
厚生省「保健衛生基礎調査」, 「国民生活基礎調査」にみる,	
日本人の健康維持・増進行動の変化	
——戦後日本の「健康至上主義」——……………	黒田浩一郎 (307)
愛と親密性の人類学試論……………	青木恵理子 (325)
Moulding clay, bottling bubbles: Actor training systems compared……………	Jonah Salz (351)

研究ノート

宗教教団とジェンダー問題

——教団アンケート調査結果から——……………	新田光子 (375)
------------------------	------------

研究ノート

子どもの教育・福祉におけるピオトープ実践の意義……………	金子龍太郎 (381)
	竺文彦
	関川雅之
	蜂谷弘子

2003 龍谷大学 国際社会文化研究所シンポジウム

日本のアジア報道・アジアの日本報道……………	(389)
------------------------	-------

第7号 2005年3月

I 共同研究

研究課題：日本の中国占領とジャーナリズム

日本の中国占領とジャーナリズム……………	卓南生 (3)
	陳昌鳳
	劉揚
	程曼麗
	劉波
	李相哲

その一 中国における日本占領と世論操作 (続き)

1. 南京「国民政府宣伝部」の新聞論とその治下の新聞 (続き)……………	卓南生 (7)
2. 『新民報』に関する研究 (続き)……………	陳昌鳳 (18)
	劉揚
3. 『華北新報』に関する研究 (続き)……………	程曼麗 (28)
	劉波

研究ノート

その二 東アジアの近代と新聞

——海外における最初の日本人経営新聞をめぐって——……………	李相哲 (39)
--------------------------------	----------

研究課題：現代的ネットワークにもとづく流域社会の再構築の可能性——京都府美山町を事例として——

戦後日本のダム開発とナショナリズム

——ナショナリゼーション論にもとづく分析——……………	田中滋 (51)
	水垣源太郎

「公物」からcommonsへ

——河川行政における流域主義の展開過程とその可能性——……………	吉田竜司 (74)
----------------------------------	-----------

研究課題：社会福祉援助技術への訓練方法の研究——コンピュータ支援による実践教育の展開——

ソーシャルワーク実践へのエコスキナー開発の研究

——支援ツールを用いたスキル訓練の方法——……………	太田義弘 (105)
	野澤正子
	中村佐織
	阪口春彦

研究課題：ビオトープ設置が生徒・学生の心理・行動面に及ぼす影響に関する研究

- 二つのビオトープ実践から見る自然との関わりに対する提言……………金子龍太郎 (123)
竺文彦
関川雅之
蜂谷弘子

研究課題：南方熊楠英文論文の連関的研究

- 南方熊楠宛の海外来簡について……………松居竜五 (145)
小泉博一
南方熊楠宛スウィングル書簡について……………松居竜五 (149)

資料紹介

- 南方熊楠宛スウィングル書簡……………本多真 (157)
松居竜五

研究課題：空堀商店街界隈長屋再生プロジェクトをめぐる諸問題

研究ノート

- 空堀地区長屋再生プロジェクトをどう捉えるか……………寿崎かすみ (181)

研究ノート

歴史的環境の保存と保全

- 今井町と空堀商店街界隈の町並み保存に関する意識を中心に——……柴田和子 (193)

研究課題：軽費老人ホームの現状と課題

研究ノート

軽費老人ホームの現状と課題研究

- 実態調査に向けて——……………西川淑子 (205)
高松智画

研究課題：食のグローバル化と社会病理

摂食障害「自助グループ」を考える

- アメリカと日本の現状から回復モデルを模索して——……………野村佳絵子 (225)

研究ノート

食のグローバル化と社会病理

- フランスの社会運動から——……………村澤真保呂 (241)
杉村昌昭
亀山佳明
高坂学

研究課題：中国西部放牧地域における貧困軽減のための参加型地域開発に関する研究

Structural Analysis of Tibetan Minority Pastoralists in the Qinghai

- Plateau Area of Sichuan Province of China……………ジェームズ・R シンプソン (253)
李 鵬
李 复屏
河村能夫

II 個人研究

狂犬病, ニンジャ, 予防ワクチン

——インドネシア・フローレス島における

身体的想像力と近代システム——……………青木 恵 理 子 (269)

「記憶の不在」は「忘却」か?

——高次脳機能障害者共同作業所における

想起コミュニケーション分析——……………松 島 恵 介 (283)

The Influence of NGO Lobbying at Hearings

by the Human Rights Committee……………Sylvia BROWN (305)

Risk Consciousness Among Japanese Youth……………William Bradley (315)

集合行為の制度化研究序説

——集合行為の形態史研究に向けて——……………吉 田 竜 司 (335)

研究ノート

原爆と広島 of 寺院……………新 田 光 子 (349)

第8号 2006年5月

I 共同研究

研究課題：空堀商店街界隈長屋再生プロジェクトをめぐる諸問題

「よそもの」の行うまちづくりと地域住民……………柴 田 和 子 (5)

イギリスにおける公共政策と青少年のコミュニティベースの

ボランティア活動……………古 川 秀 夫 (18)

研究ノート

からほり長屋再生プロジェクト

——地域イメージ形成によるまちづくり——……………寿 崎 か す み (27)

研究ノート

学生ボランティアに関する日英比較……………古 川 秀 夫 (39)

研究課題：日中韓の漢字語単語を利用した語彙力増進の研究

日・中・韓漢字語の比較研究……………朴 炫 国 (51)
 劉 虹
 徐 益 煥
 蘇 瑞 卿

关于会话分析的方法论问题……………劉 虹 (67)
 蘇 瑞 卿
 朴 炫 国
 徐 益 煥

从“宁”到“宁可”……………蘇 瑞 卿 (80)

研究課題：サハラ以南アフリカの精神保健福祉分野へのオプティマル・トリートメント・プロジェクト（OTP）導入に関するフィージビリティ研究

研究ノート

植民地期英領アフリカにおける精神保健施設……………金 田 知 子（93）
落 合 雄 彦

資 料

ナイジェリア南西部の精神科病院入院患者に対するインタビュー調査……………金 田 知 子（104）
落 合 雄 彦

研究課題：カナダ亜寒帯林の炭素収支

研究資料

カナダ亜寒帯林の炭素収支：2004年の結果……………大 沢 晃（125）
宮 浦 富 保
倉 地 奈 保 子

研究課題：日本における介護分野でのフィリピン人労働者の受け入れに関する研究

研究ノート

A PRELIMINARY STUDY ON MIGRATION

FROM THE PHILIPPINES TO ITALY:

Focus on Elderly Care in an Ageing Society……………Ma. Reinaruth D. Carlos（135）
Mervin L. Pobre

研究課題：東北アジア古代文化交流の総合的研究

——中国遼東・山東地域の古代文化を中心にして——

東北アジア古代文化交流の総合的研究……………徐 光 輝（155）
嵩 満 也
王 嗣 洲
蕭 景 全
常 興 照

研究課題：アメリカのマスメディア・大衆文化に見る日本のイメージ

Occidental Images of the Geisha……………William Bradley（167）

欧米における日本マンガ受容の新たな展開

——少女マンガブームをめぐる——……………松 居 竜 五（176）

研究課題：軽費老人ホームの現状と課題

軽費老人ホームA型の今後の選択

——特定施設化についての考察——……………西 川 淑 子（189）

軽費老人ホームの役割とはなにか……………高 松 智 画（206）

社会福祉政策と住宅政策のはざまにおける軽費老人ホームの課題

——全国養老事業協会がめざしたもの——……………船 本 淑 恵（220）

研究課題：食のグローバル化と社会病理

摂食障害「自助グループ」を考える（2）

——イギリスのネットワーク化とそれを学（真似）ぶ日本の課題——……………野 村 佳 絵 子（231）

研究課題：中国西部放牧地域における貧困軽減のための参加型地域開発に関する研究

Comparative Analysis of Two Settled Livestock Producers in

Northeastern Inner-Mongolia, China James R. Simpson (249)
Ou Li
Fuping Li
Yoshio Kawamura**研究課題：第2次大戦期における日本人のアジア観**

The International Impact of the Provisional Government of India:

—The Japanese Response to Bose's Initiative

during the World War II—— Nobuko Nagasaki (275)

戦前の東・西本願寺のアジア開教 嵩 満 也 (295)

Ⅱ 個人研究

植民地統治下の抵抗ジャーナリズム

—戦前朝鮮半島における「民族紙」の系譜を辿る— 李 相 哲 (303)

从“猪仔问题”报道看《香港船头货价纸》的编辑方针与定位 卓 南 生 (321)
毛 章 清

デルフト陶器の古九谷焼への影響について 宮 元 健 次 (333)

Ⅲ シンポジウム

2005年龍谷大学国際社会文化研究所シンポジウム

国境を越えた村おこし——日本と東南アジアをつなぐ実践—— (345)

第9号 2007年5月**I 共同研究****研究課題：アメリカのマスメディア・大衆文化に見る日本のイメージ**

Beyond Orientalism:

—Historicizing the Geisha as Fetish and Spectacle—— William Bradley (5)

クレオール化する日本イメージ

—アメリカ製コミックにおける「ニンジャ」「サムライ」像を

めぐって—— 松 居 竜 五 (21)

研究課題：NPO 法人による被虐待児に対応する新たな社会的養護の創出

—国際児童支援組織 SOS 子供の村を導入するための理論的検討—

国際児童福祉組織 SOS 子供の村の導入をめざして (1)

—子供の生活と発達を保障する職員の養成を中心に—— 金子 龍 太 郎 (33)
中 島 賢 介**研究課題：韓国と日本伝統芸能の比較美学**

Performance aesthetics compared, Korea and Japan:

—Creating a zone for discovery—— Jonah Salz (49)
Hyun kuk Park

- Kata in Systems and the Aesthetics of Performing Arts……………Tetsunori Koizumi (69)
- Principal concepts in the aesthetics of Korean traditional dance……………Yoo, Mi-hee (77)
- Korean Dance Aesthetics:
 —A Preliminary Investigation—……………Judy Van Zile (81)
- ギリシャ演劇の浄化, 能の花, 舞踏の暗黒……………マイケル・ラザリン (90)
- Steering from the center: keywords of Japanese performance aesthetics……………Jonah Salz (101)
- 研究課題：国際語としての英語とは？：ポライトネスの観点からの示唆**
 Functions of Laughter in Intercultural Communication:
 An Analysis of Laughter as a Communicative Strategy……………Kazuyo MURATA (115)
 Motoko HORI
- 研究課題：日中ジャーナリズム交流史の系譜についての研究**
 寧波における最初期の近代華字新聞
 —『中外新報』(1854～1861)とその日本版についての研究—……………卓南生 (127)
- 日本在华报纸《閩報》(1897—1945年)创办考略……………毛章清 (148)
- 研究課題：日本における介護分野でのフィリピン人労働者の受け入れに関する研究**
 The Economic Integration of Filipino Residents
 in the Ageing Society of Japan……………Ma. Reinaruth D. Carlos (163)
 Mervin L. Pobre
- 研究課題：フィールドワークによる南方熊楠の足跡調査と映像作品の作成**
 フィールドワークによる南方熊楠の那智森林足跡調査……………松居竜五 (177)
 岩崎仁
- 研究課題：食のグローバル化と社会病理**
 食の倫理
 —グローバル化する食環境とその批判にかんする考察—……………村澤真保呂 (197)
 杉村昌昭
 亀山佳明
- 研究課題：カナダ亜寒帯林の炭素収支**
研究資料
 カナダ亜寒帯林の炭素収支
 —2004年, 2005年のリター量の推定—……………大沢晃 (213)
 宮浦富保
 倉地奈保子
- 研究課題：戦争の社会的影響に関する研究——新しい視点からの原爆被害研究をめざして——**
研究ノート
 戦争の社会的影響に関する研究
 —新しい視点からの原爆被害研究をめざして—……………新田光子 (225)
 山中美由紀
 高橋三郎

研究課題：学問分野としての「国際文化学」の確立

研究ノート

- 学問分野としての「国際文化学」の確立……………松 井 賢 一 (233)
 平野 健 一 郎
 川 村 陶 子
 長 崎 暢 子
 植 野 雄 司
 松 居 竜 五
 ウィリアム・ブラドリー
 カルロス・マリア・レイナルース

II 個人研究

全座席化と消費空間化

- イギリスのサッカー観戦環境をめぐる国家と市場の結合——……………吉 田 竜 司 (251)
 イラン立憲革命期に至るアルメニア人イエプレム・ハーン Yeprem Khān の活動
 ——イラン立憲制の起源と展開におけるマイノリティの
 役割に関する一考察——……………佐 野 東 生 (265)
 「健康食品」の社会学
 ——序 説——……………黒 田 浩 一 郎 (289)
 「持続の障がい」としての高次脳機能障がい……………松 島 恵 介 (313)

研究ノート

滋賀県の犯罪

- 市町村の変容と実態に関する予備的考察——……………津 島 昌 寛 (329)

研究ノート

- 中国の学生ボランティア……………古 川 秀 夫 (345)

III シンポジウム

2006年龍谷大学国際社会文化研究所シンポジウム

- もっと知ろう!! 私たちの隣人——新来外国人居住者と日本社会——…………… (357)

第10号 2008年6月

I 共同研究

研究課題：日・韓比較民俗研究

- 영산(靈山)의 즐다리기에 대(對)하여……………朴 炫 国 (5)
 Jonah Salz
 金 鎮 国
 高 惠 卿
 朝鮮時代の旅芸人の系譜と芸能……………朴 銓 烈 (16)
 木の文化の形成 (韓国編 第1部)……………須 藤 護 (26)

研究課題：NPO 法人による被虐待児に対応する新たな社会的養護の創出

——国際児童支援組織 SOS 子どもの村の導入の理論的根拠を探る——

国際児童福祉組織 SOS 子どもの村の導入をめざして (2)

——世界での新たな展開と日本での導入経過——……………金子龍太郎 (55)
中島賢介

研究課題：韓国と日本伝統芸能の比較美学

Japanese and Korean Comparative Aesthetics 2:

——Report on the PACKAJ Seminar in Pusan 2007——……………Jonah Salz (71)

Visible Breathing: The Use of the Breath in Korean Dance……………Judy Van Zile (80)

Shinmyong in Korean traditional dance:

Naturalness and Circulation of Ki Energy……………Yoo, Mi-hee (90)

한국(韓国) 전통(伝統) 예술(芸術)에서

사용(使用) 되는 언어(言語) 표현(表現)에 대하여

——신명(神明)과 숨을 중심(中心)으로——……………朴炫国 (93)

“Hana” as manifestation of beauty in Japanese noh:

Contrasting the flower with Korean's *shinmyong* (spontaneous *katharsis*)……………Jonah Salz (101)

Chora: The Sacred Space of Performance……………Michael Lazarin (107)

Dance and Aesthetic Ideals:

Dance as Form in Motion Representing, Sharing and

Transcending the Realities of Human Existence……………Tetsunori Koizumi (118)

研究課題：日中ジャーナリズム交流史の系譜についての研究

寧波『中外新報』(1854-1861)の編集方針と報道姿勢……………卓南生 (131)

日本在华中文报纸《汉报》(1896-1900)诞生背景及其编辑方针……………阳美燕 (155)

《全闽新日报》(1907-1945)的三个发展阶段及其特征……………毛章清 (165)

研究課題：学問分野としての「国際文化学」の確立

研究ノート

国際文化学の確立

——シンポジウムと考察——……………松井賢一 (185)

Carlos, Maria Reinartud

松居竜五

William S. Bradley

長崎暢子

平野健一郎

植野雄司

川村陶子

研究課題：フィールドワークによる南方熊楠の足跡調査と映像作品の作成

南方熊楠のフィールドワーク

——那智から、中辺路、田辺へ——……………岩崎仁 (217)

柳田国男と南方熊楠の協力について……………松居竜五 (226)

資料紹介 南方熊楠蔵『石神問答』『遠野物語』書き込みと

柳田宛書簡での指摘の対照表	溝口佳代 (234)
	松居竜五

II 個人研究

現代インドネシアにおけるアイデンティティ問題系の多様性	青木恵理子 (247)
「ニュース発信ツールとしてのブログ」研究	
——個人メディアが変えるジャーナリズム——	小黒純 (267)
浄土真宗本願寺派による初期ハワイ開教と非日系開教使の誕生	嵩満也 (285)
A Preliminary Analysis of University Globalization Centers	William Bradley (297)
Evaluation methods of validity and reliability	
in developmental L2 pragmatics research	Shoichi Matsumura (303)

III シンポジウム

2007年龍谷大学国際社会文化研究所国際シンポジウム

古代東アジアの文化交流から学ぶ——温故知新——	(315)
-------------------------	-------

4. 叢書一覽

1) 地域総合研究所叢書一覽

第1巻

タイトル：『スーパービジョンの理論と実際』

編 著：黒川 昭 登

発 行：1992（平成4）年

出 版 社：岩崎学術出版社

第2巻

タイトル：『社会福祉対象論』

編 著：中 垣 昌 美

発 行：1995（平成7）年

出 版 社：さんえい出版

第3巻

タイトル：『現代家族の変貌 国際比較による総合的研究』

編 著：中 久 郎

発 行：1997（平成9）年

出 版 社：行路社

第4巻

タイトル：『近江商人の里・五個荘 その伝統と現在』

編 著：口 羽 益 生

発 行：1997（平成9）年

出 版 社：行路社

第5巻

タイトル：『日本社会福祉法制史年表Ⅱ——戦後編——』

編 著：桑 原 洋 子

発 行：1999（平成11）年

出 版 社：永田文昌堂

第6巻

タイトル：『宗教・地域・家族 イメージの検証』

編 著：古 賀 和 則

発 行：1999（平成11）年

出 版 社：行路社

第7巻

タイトル：『野生の教育をめざして——子どもの社会化から超社会化へ』

編 著：亀 山 佳 明

麻 生 武

矢 野 智 司

発 行：2000（平成12）年

出 版 社：新曜社

2) 国際社会文化研究所叢書一覧

第1巻

タイトル：『現代日本のボランティア像』

編 著：古 川 秀 夫

発 行：2002（平成14）年

出 版 社：株式会社 思文閣出版

第2巻

タイトル：『変貌するアジアの家族——比較・文化・ジェンダー——』

編 著：山 中 美 由 紀

発 行：2004（平成16）年

出 版 社：株式会社 昭和堂

第3巻

タイトル：『中国北方仏教文化研究における新視座』

編 著：嵩 満 也

発 行：2004（平成16）年

出 版 社：有限会社 永田文昌堂

第4巻

タイトル：『アフリカの医療・障害・ジェンダー
——ナイジェリア社会への新たな複眼的アプローチ——』

編 著：落 合 雄 彦

金 田 知 子

発 行：2007（平成19）年

出 版 社：株式会社 晃洋書房

第5巻

タイトル：『国境を越えた村おこし 日本と東南アジアをつなぐ』

編 著：加 藤 剛

発 行：2007（平成19）年

出 版 社：NTT 出版株式会社

第6巻

タイトル：『東北アジア古代文化論叢』

編 著：徐 光 輝

発 行：2008（平成20）年

出 版 社：株式会社 北九州中国書店

第7巻

タイトル：『資料集 インド国民軍関係者聞き書き』

編 著：長 崎 暢 子

田 中 敏 雄

中 村 尚 司

石 坂 晋 哉

発 行：2008（平成20）年

出 版 社：研文出版

第8巻

タイトル：『戦争と家族——広島原爆被害研究——』

編 著：新 田 光 子

発 行：2009（平成21）年

出 版 社：株式会社 昭和堂

5. 歴代運営会議メンバー一覧

1) 地域総合研究所期 (1989～1996年度)

■ 1989年度 (平成元年度)

所 長：口羽 益生 (社会学部教授)
メンバー：木村 定 (社会学部教授)
黒川 昭登 (社会学部教授)
児玉 昇 (社会学部教授)
高島 昌二 (社会学部教授)
松下敬一郎 (社会学部助教授)
宮永 昌男 (経済学部教授)
安武 敏夫 (法学部教授)
山口 昌哉 (理工学部教授)
金守 武夫 (研究サービスセンター長)

■ 1990年度 (平成2年度)

所 長：口羽 益生 (社会学部教授)
メンバー：木村 定 (社会学部教授)
黒川 昭登 (社会学部教授)
児玉 昇 (社会学部教授)
高島 昌二 (社会学部教授)
松下敬一郎 (社会学部助教授)
宮永 昌男 (経済学部教授)
安武 敏夫 (法学部教授)
山口 昌哉 (理工学部教授)
向山 晃祥 (研究サービスセンター長)

■ 1991年度 (平成3年度)

所 長：口羽 益生 (社会学部教授)
メンバー：木村 定 (社会学部教授)
黒川 昭登 (社会学部教授)
児玉 昇 (社会学部教授)
高島 昌二 (社会学部教授)
松下敬一郎 (社会学部助教授)
上條 榮治 (理工学部教授)
宮永 昌男 (経済学部教授)
山口 昌哉 (理工学部教授)

向山 晃祥 (研究サービスセンター長)

■ 1992年度 (平成4年度)

所 長：口羽 益生 (社会学部教授)
メンバー：木村 定 (社会学部教授)
黒川 昭登 (社会学部教授)
児玉 昇 (社会学部教授)
高島 昌二 (社会学部教授)
松下敬一郎 (社会学部助教授)
宮永 昌男 (経済学部教授)
山口 昌哉 (理工学部教授)
上條 榮治 (理工学部教授)
向山 晃祥 (研究サービスセンター長)

■ 1993年度 (平成5年度)

所 長：黒川 昭登 (社会学部教授)
メンバー：木村 定 (社会学部教授)
口羽 益生 (社会学部教授)
乗原 洋子 (社会学部教授)
高津 等 (社会学部教授)
松下敬一郎 (社会学部助教授)
上條 榮治 (理工学部教授)
宮永 昌男 (経済学部教授)
山口 昌哉 (理工学部教授)
向山 晃祥 (研究サービスセンター長)

■ 1994年度 (平成6年度)

所 長：黒川 昭登 (社会学部教授)
メンバー：木村 定 (社会学部教授)
口羽 益生 (社会学部教授)
乗原 洋子 (社会学部教授)
高津 等 (社会学部教授)
松下敬一郎 (社会学部助教授)
上條 榮治 (理工学部教授)

宮永 昌男（経済学部教授）
山口 昌哉（理工学部教授）
洪田 義行（研究事務部長）

■ 1995年度（平成7年度）

所 長：笠原 成郎（社会学部教授）
メンバー：松下敬一郎（社会学部助教授）
高津 等（社会学部教授）
高島 昌二（社会学部教授）
佐々木政人（社会学部助教授）
奈倉 道隆（社会学部教授）
上條 榮治（理工学部教授）
宮永 昌男（経済学部教授）
卓 南生（経営学部教授）

洪田 義行（研究事務部長）

■ 1996年度（平成8年度）

所 長：笠原 成郎（社会学部教授）
メンバー：高島 昌二（社会学部教授）
高津 等（社会学部教授）
奈倉 道隆（社会学部教授）
佐々木政人（社会学部助教授）
松下敬一郎（社会学部助教授）
上條 榮治（理工学部教授）
宮永 昌男（経済学部教授）
須藤 護（国際文化学部教授）
上野 永正（研究事務部長）

2) 国際社会文化研究所期 (1997年度～現在)

■ 1997年度 (平成9年度)

所 長：松井 賢一 (国際文化学部教授)
 メンバー：笠原 成郎 (社会学部教授)
 松下敬一郎 (社会学部助教授)
 長上 深雪 (社会学部助教授)
 須藤 護 (国際文化学部教授)
 大澤 晃 (国際文化学部助教授)
 ポーリン ケント
 (国際文化学部助教授)
 上野 永正 (研究事務部長)

■ 1998年度 (平成10年度)

所 長：松井 賢一 (国際文化学部教授)
 メンバー：田中 滋 (社会学部教授)
 長上 深雪 (社会学部助教授)
 松下敬一郎 (社会学部教授)
 上山 大峻 (国際文化学部教授)
 浜野シルビア ブラウン
 (国際文化学部教授)
 マカダム ジョセフ
 (国際文化学部教授)
 岡部 修 (研究事務部長)

■ 1999年度 (平成11年度)

所 長：舟橋 和夫 (社会学部教授)
 メンバー：田中 滋 (社会学部教授)
 野澤 正子 (社会学部教授)
 清水 隆則 (社会学部助教授)
 松井 賢一 (国際文化学部教授)
 浜野シルビア ブラウン
 (国際文化学部教授)
 須藤 護 (国際文化学部教授)
 岡部 修 (研究事務部長)

■ 2000年度 (平成12年度)

所 長：舟橋 和夫 (社会学部教授)
 メンバー：田中 滋 (社会学部教授)

清水 隆則 (社会学部助教授)
 野澤 正子 (社会学部教授)
 権 五定 (国際文化学部教授)
 浜野シルビア ブラウン
 (国際文化学部教授)
 木南 莉莉 (国際文化学部助教授)
 岡部 修 (研究事務部長)

■ 2001年度 (平成13年度)

所 長：権 五定 (国際文化学部教授)
 メンバー：田中 滋 (社会学部教授)
 野澤 正子 (社会学部教授)
 舟橋 和夫 (社会学部教授)
 卓 南生 (国際文化学部教授)
 浜野シルビア ブラウン
 (国際文化学部教授)
 木南 莉莉 (国際文化学部助教授)
 室住 賢一 (研究事務部長)

■ 2002年度 (平成14年度)

所 長：権 五定 (国際文化学部教授)
 メンバー：舟橋 和夫 (社会学部教授)
 田中 滋 (社会学部教授)
 久田 則夫 (社会学部助教授)
 卓 南生 (国際文化学部教授)
 浜野シルビア ブラウン
 (国際文化学部教授)
 スタイン バーバラ
 (国際文化学部助教授)
 室住 賢一 (研究事務部長)

■ 2003年度 (平成15年度)

所 長：田中 滋 (社会学部教授)
 メンバー：上林 茂暢 (社会学部教授)
 金子龍太郎 (社会学部教授)
 堀田 知子 (社会学部教授)
 佐々木英昭 (国際文化学部教授)

卓 南生 (国際文化学部教授)
浜野シルビア ブラウン
(国際文化学部教授)
室住 賢一 (研究事務部長)

■ 2004年度 (平成16年度)

所 長: 田中 滋 (社会学部教授)
メンバー: 李 屏 (社会学部講師)
伏見 恵文 (社会学部教授)
金子龍太郎 (社会学部教授)
シンプソン ジェームス
(国際文化学部教授)
朴 炫国 (国際文化学部助教授)
劉 虹 (国際文化学部助教授)
室住 賢一 (研究事務部長)

■ 2005年度 (平成17年度)

所 長: 松原 廣志 (国際文化学部教授)
メンバー: 加藤 剛 (社会学部教授)
清水 隆則 (社会学部教授)
山中美由紀 (社会学部教授)
シンプソン ジェームス
(国際文化学部教授)
嵩 満也 (国際文化学部教授)
ヤマンラール水野美奈子
(国際文化学部教授)
辻川 淳一 (研究事務部次長)

■ 2006年度 (平成18年度)

所 長: 松原 廣志 (国際文化学部教授)

メンバー: 荒牧 和子 (社会学部教授)
加藤 剛 (社会学部教授)
吉田 竜司 (社会学部助教授)
鈴木 滋 (国際文化学部助教授)
須藤 護 (国際文化学部教授)
劉 虹 (国際文化学部教授)
辻川 淳一 (研究事務部次長)

■ 2007年度 (平成19年度)

所 長: 加藤 剛 (社会学部教授)
メンバー: 青木 信雄 (社会学部教授)
舟橋 和夫 (社会学部教授)
吉田 竜司 (社会学部助教授)
徐 光輝 (国際文化学部教授)
権 五定 (国際文化学部教授)
ヤマンラール水野美奈子
(国際文化学部教授)
井野谷文三 (研究事務部次長)

■ 2008年度 (平成20年度)

所 長: 加藤 剛 (社会学部教授)
メンバー: 小椋 博 (社会学部教授)
清水 隆則 (社会学部教授)
吉田 竜司 (社会学部准教授)
斎藤 文彦 (国際文化学部教授)
権 五定 (国際文化学部教授)
ヤマンラール水野美奈子
(国際文化学部教授)
井野谷文三 (研究事務部次長)

6. 研究所規程

1) 地域総合研究所規程

制 定 昭和63年12月1日

一部改正 平成6年6月30日

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規程は、龍谷大学学則第70条に定める地域総合研究所（以下「地総研」という。）について、その組織及び運営等必要な事項を定めることを目的とする。

(所在地)

第2条 地総研は、龍谷大学瀬田学舎内に置く。

(地総研の目的)

第3条 地総研は、地域社会に関する総合的調査・研究並びに国際的研究交流を推進し、学術研究の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元をはかることを目的とする。

(事 業)

第4条 地総研は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 地域社会に関する調査・研究
- (2) 紀要及び叢書の刊行
- (3) 研究セミナー、公開講座、講演会等の開催
- (4) 社会福祉の増進等地域社会に対する技術協力及び専門的援助・技術指導
- (5) 地域社会に関する資料の収集及び整理
- (6) 国内外の大学及び研究機関との交流
- (7) その他前条の目的を遂行するために必要な事業

第2章 運営会議

(運営会議)

第5条 地総研に、重要な事項について審議・決定するため、地域総合研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 次の各号に掲げる事項は、運営会議において決定するものとする。

- (1) 事業計画
- (2) 研究所予算
- (3) 研究プロジェクトの設置・廃止
- (4) 研究員及び受託研究員の受入れ

(構 成)

第6条 運営会議は、次の各号に掲げるもので構成する。

- (1) 所 長
- (2) 社会学部教授会が選任する者 5名

- (3) 学長が指名する者 3名
- (4) 専任研究員
- (5) 研究事務部長

2 前項第2号及び第3号による者の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集)

第7条 運営会議は、所長が必要と認める都度招集し、所長は会議の議長となる。

(定足数等)

第8条 運営会議は、構成員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数の同意により決する。

第3章 組織

(部の設置)

第9条 地総研に研究調査部及び事業部を設ける。

2 研究調査部は、第4条に規定する事業のうち、研究及び調査に関する事業を分担する。

3 事業部は、第4条に規定する事業のうち、研究情報の収集・整理及び研究成果の社会還元並びに研究交流等に関する事業を分担する。

(研究プロジェクト)

第10条 地総研に、研究プロジェクトを置く。

第4章 職員組織

(所長)

第11条 地総研に、所長1名を置く。

2 所長は、地総研の業務を総括し、地総研を代表する。

3 所長は、運営会議の推薦する者に対して、学長が任命する。

4 所長の任期は、2年とする。

(所長代理)

第12条 運営会議が必要と認めるときは、所長代理をおくことができる。

2 所長代理の選任、職務等必要な事項は、その都度運営会議が定める。

(主任)

第13条 第9条に定める部に、主任各1名を置く。

2 主任は、各部の業務を調整処理する。

3 主任は、大学の専任教育職員の中から、運営会議が選任する。

(主査)

第14条 第10条に定める研究プロジェクトに、それぞれ主査1名を置く。

2 主査は、当該研究プロジェクトを主宰し、その活動を調整推進する。

3 主査は、当該研究プロジェクトにかかわる者の中から、運営会議が選任する。

(常任委員会)

第15条 所長のもとに、運営会議の決定事項の執行及び委任事項の処理並びに地総研の日常的業務の連絡・調整を図るために、地域総合研究所常任委員会（以下「常任委員会」という。）を置く。

2 常任委員会は、次の各号の者で構成する。

- (1) 所長

- (2) 各主任
- (3) 運営会議が選任する者 若干名
- (4) 地総研事務長

第5章 研究員

(研究員)

第16条 地総研に、研究・調査活動に参加する者として、次に掲げる研究員を置く。

- (1) 専任研究員
- (2) 兼任研究員
- (3) 客員研究員
- (4) 嘱託研究員

(専任研究員)

第17条 専任研究員は、地総研に所属する専任教育職員で、専ら研究・調査に従事する者をいう。

2 専任研究員の任用については、別に定める。

(兼任研究員)

第18条 兼任研究員は、本学の専任教職員で、地総研の活動に参加する者をいう。

2 兼任研究員は、所長が候補者を推薦し、学長が委嘱する。ただし、候補者が専任教育職員である場合は、あらかじめその候補者の所属する教授会の承認を得るものとする。

3 兼任研究員の任期は、1年間又は2年間とする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第19条 客員研究員は、学外の研究者でその身分のまま一定期間地総研に所属する者をいう。

2 客員研究員は、所長が候補者を推薦し、運営会議の承認を経て学長が委嘱する。

(嘱託研究員)

第20条 嘱託研究員は、前3条に規定する研究員以外の者で、地総研の活動に参加する者をいう。

2 嘱託研究員の任期は、客員研究員に準じるものとする。

(受託研究員)

第21条 地総研は、企業等から受託研究員を受入れることができる。

2 受託研究員の受入れについては、別に定める。

第6章 補則

(事務)

第22条 地総研に、地総研の事務を処理するため、地総研事務室を置く。

2 地総研事務室に、必要な事務職員を置く。

(改廃)

第23条 この規程の改正又は廃止は、運営会議の発議により大学評議会において行うものとする。

付則

この規程は、昭和64年4月1日から施行する。

付則(平成6年6月30日第6条改正)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

2) 国際社会文化研究所規程

制 定 平成9年3月25日
一部改正 平成13年9月27日
一部改正 平成15年5月15日
一部改正 平成20年3月6日

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規程は、龍谷大学学則第70条に定める国際社会文化研究所（以下「社文研」という。）について、その組織及び運営等必要な事項を定めることを目的とする。

(所在地)

第2条 社文研は、龍谷大学瀬田学舎内に置く。

(社文研の目的)

第3条 社文研は、地域、社会、福祉、国際文化及び国際共生に関する総合的学術研究並びに国際的研究交流を推進し、これらの分野における学術研究の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元をはかることを目的とする。

(事 業)

第4条 社文研は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 地域、社会、福祉、国際文化及び国際共生に関する研究・調査
- (2) 紀要及び叢書の刊行
- (3) 研究セミナー、公開講座及び講演会等の開催
- (4) 社会福祉の増進等地域社会に対する技術協力及び専門的援助・技術指導
- (5) 地域、社会、福祉、国際文化及び国際共生に関する資料の収集及び整理
- (6) 国内外の大学及び研究機関との交流
- (7) その他前条の目的を遂行するために必要な事業

第2章 運営会議

(運営会議)

第5条 社文研に、重要な事項について審議・決定するため、国際社会文化研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 次の各号に掲げる事項は、運営会議において決定するものとする。

- (1) 事業計画
- (2) 研究所予算
- (3) 研究プロジェクトの設置・廃止
- (4) 研究員及び受託研究員の受入れ

(構 成)

第6条 運営会議は、次の各号に掲げるもので構成する。

- (1) 所 長
- (2) 社会学部教授会が選任する者 3名

(3) 国際文化学部教授会が選任する者 3名

(4) 専任研究員

(5) 研究部事務部長

2 前項第2号及び第3号による者の任期は、1年とする。ただし再任を妨げない。

(招集)

第7条 運営会議は、所長が必要と認める都度招集し、所長は会議の議長となる。

(定足数等)

第8条 運営会議は、構成員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数の同意により決する。

第3章 組織

(部の設置)

第9条 社文研に研究調査部及び事業部を設ける。

2 研究調査部は、第4条に規定する事業のうち、研究及び調査に関する事業を分担する。

3 事業部は、第4条に規定する事業のうち、研究情報の収集・整理及び研究成果の社会還元並びに研究交流等に関する事業を分担する。

(研究プロジェクト)

第10条 社文研に、研究プロジェクトを置く。

第4章 職員組織

(所長)

第11条 社文研に、所長を1名を置く。

2 所長は、社文研の業務を統括し、社文研を代表する。

3 所長は、運営会議の推薦する者に対して、学長が任命する。

4 所長の任期は、2年とする。

(所長代理)

第12条 運営会議が必要と認めるときは、所長代理をおくことができる。

2 所長代理の選任は、職務等必要な事項は、その都度運営会議が定める。

(主任)

第13条 第9条に定める、主任各1名を置く。

2 主任は、各部の事業を調整処理する。

3 主任は、大学の専任教育職員の中から、運営会議が選任する。

(主査)

第14条 第10条に定める研究プロジェクトに、それぞれ主査1名を置く。

2 主査は、当該研究プロジェクトを主宰し、その活動を調整推進する。

3 主査は、当該研究プロジェクトにかかわる者の中から、運営会議が選任する。

(常任委員会)

第15条 所長のもとに、運営会議の決定事項の執行及び委任事項の処理並びに社文研の日常的業務の連絡・調整を図るために、国際社会文化研究所常任委員会（以下「常任委員会」という。）を置く。

2 常任委員会は、次の各号の者で構成する。

(1) 所長

- (2) 各主任
- (3) 運営会議が選任する者 若干名
- (4) 社文研課長

第5章 研究員

(研究員)

第16条 社文研に、研究・調査活動に参加する者として、次に掲げる研究員を置く。

- (1) 専任研究員
- (2) 兼任研究員
- (3) 客員研究員
- (4) 嘱託研究員

(専任研究員)

第17条 専任研究員は、社文研に所属する専任教育職員で、専ら研究・調査に従事する者を言う。

2 専任研究員の任用については、別に定める。

(兼任研究員)

第18条 兼任研究員は、本学の専任教職員で、社文研の活動に参加する者をいう。

2 兼任研究員は、所長が候補者を推薦し、学長が委嘱する。ただし、候補者が専任教育職員である場合は、あらかじめその候補者の所属する教授会の承認を得るものとする。

3 兼任研究員の任期は、1年間又は2年間とする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第19条 客員研究員は、学外の研究者でその身分のまま一定期間社文研に所属する者をいう。

2 客員研究員は、所長が候補者を推薦し、運営会議の承認を経て学長が委嘱する。

(嘱託研究員)

第20条 嘱託研究員は、前3条に規定する研究員以外の者で、社文研の活動に参加する者をいう。

2 嘱託研究員の任用は、客員研究員に準ずるものとする。

(受託研究員)

第21条 社文研は、企業等から受託研究員を受け入れることができる。

2 受託研究員の受け入れについては、別に定める。

第6章 補則

(事務)

第22条 社文研に、社文研の事務を処理するため、国際社会文化研究所事務室（以下「社文研事務室」という。）を置く。

2 社文研事務室に、必要な事務職員を置く。

(改廃)

第23条 この規程の改正又は廃止は、運営会議の発議により大学評議会において行うものとする。

付則

1 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

2 地域総合研究所が継続している事業については、国際社会文化研究所が引き継ぐものとする。

付 則（抄）（平成13年9月27日第6条改正）

- 1 この規程は、平成13年4月1日から施行する。

付 則（平成15年5月15日第15条改正）

- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、現に、国際社会文化研究所事務室事務長にある者は、この規程による課長とみなす。

付 則（平成20年3月6日第3条、第4条改正）

この規程は、平成20年3月6日から施行する。

7. 国際社会文化研究所の組織図

